

1635

治十七年

元老院會議筆記

自第四百二十四号  
至第四百三十号

記錄課

司 法 省 文 庫			
	和	雜	三
	書	書	四
			五
			六
一	冊	架	函
		號	部
			門



司法省文庫

第 5236 號

XB100  
G | I  
| m

八番	六番	五番	四番	三番	二番	一番
井田讓	渡邊驥	津田出	本田親雄	東久世通禧	渡邊洪基	鍋島幹

出席議員

議長 佐野常民

元老院會議筆記

明治十七年一月十二日

禁傍聽

○第四百二十四號議案

民事訴訟用印紙規則制定ノ儀 第一讀會

XB100  
G | I  
| m

第四百五号、民事訴訟用印紙規則制定ノ儀  
 第四百五号、地担法制定ノ儀  
 第四百五号、海軍違罪法制定ノ儀  
 第四百五号、地方規程別第三條第十五項改正ノ儀  
 第四百五号、區町村會法改正ノ儀  
 第四百五号、區町村會規則制定ノ儀

九番	神田 孝平
十一番	楠本 正隆
十二番	榎村 正直
十三番	大久保一翁
十五番	黒田 清綱
十六番	田中 芳男
十九番	河田 景與
二十番	林 友幸
二十一番	伊丹 重賢
二十三番	橋口 兼三
二十四番	大鳥 圭介

二十五番	西村 貞陽
二十六番	野村 素介
二十七番	渡邊 清
二十八番	箕作 麟祥
三十番	柴原 和
三十一番	上杉 茂憲
三十二番	鷺尾 隆聚
三十五番	鍋島 直大
三十六番	細川潤次郎
三十七番	津田 眞道
三十八番	海江田信義

三十九番 伊集院兼寛

四十番 三浦 安

四十一番 西 周

四十二番 長岡 護美

内閣委員 一番 参事院議官 水本 成美

同 二番 参事院議官補 周布 公平

同 三番 参事院員外議官補南部 甕男

午前第十時十分開場

○議長 本日ハ第四百二十四號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

布告案

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年 月 日ヨリ施行ス

但明治八年<sup>十二月</sup>第百九拾六號布告訴訟用罨紙規則及ヒ明治十年<sup>二月</sup>第拾九號布告控訴上告手續第十六條ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス  
右奉 勅旨布告候事

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ニ付差出ス訴狀及ヒ其他ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

但人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノハ四圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

金額拾圓未滿 貳拾錢

同 拾圓以上貳拾圓未滿 五拾錢

同 貳拾圓以上五拾圓未滿 貳圓

同 五拾圓以上七拾五圓未滿 四圓

同 七拾五圓以上百圓未滿 六圓

同 百圓以上貳百五拾圓未滿 八圓

同 貳百五拾圓以上五百圓未滿 拾圓

同 五百圓以上七百五拾圓未滿 拾三圓

同 七百五拾圓以上千圓未滿 拾六圓

同 千圓以上貳千五百圓未滿 貳拾圓

同 貳千五百圓以上五千圓未滿 貳拾五圓

同 五千圓以上七千五百圓未滿 三拾圓

同 七千五百圓以上壹萬圓未滿 三拾五圓

同 壹萬圓以上ハ千圓マテ毎ニ五圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ二倍ノ印紙ヲ貼用シ上告ニ於テハ三倍ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第三條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

答辯書證據物寫辯駁書辯論書上申書陳述書等

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書

第四條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第五條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本

壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚

三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ

壹枚二十行一行十八字詰トス

第六條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ節貳拾錢ノ印紙ヲ

貼用ス可シ

第七條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ直者ヨリ曲者ニ對

シ其辨償ヲ請求スルコトヲ得

第八條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其

他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第十條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二

百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ

買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙

ヲ沒收ス

第十一條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再

犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○番一  
外番 水本 成美

本日ハ本月七日ヲ以テ内閣ヨリ下付セラレタル本院  
番號第四百二十四號議案ノ第一讀會ナルニ由リ本官ハ内閣委員タ  
ルノ職分ヲ以テ宜ク本案ノ發布ヲ必要スル理由ヲ陳明スヘキモ其  
理由書ヲ内閣ヨリ下付セラレタレハ各議官既ニ之ヲ領解シタル可  
ク殊ニ司法卿ノ本院別席ニ於テ本案ノ實際ニ必要ナル事情ヲ陳述  
セル有ルカ故ニ本官復タ之ヲ贅述セス唯他ノ一事ノ理由書ニ載セ  
ス又司法卿ノ説カサル者アレハ今之ヲ補陳セン抑モ此印紙ハ第一  
單純ナル民事ノ訴訟ノミニ貼用セシムル歟第二刑事附帶ノ訴訟ニ  
モ之ヲ貼用セシムル歟第三外國人ノ訴訟ニモ亦之ヲ貼用セシムル  
歟ノ問題ナリ而シテ第一第二ノ件ハ皆是之ヲ貼用セシムルニ在リ

テ彼ノ行政裁判ニ關スル民事ノ訴訟ニモ亦之ヲ貼用セシムルナリ  
其第三タル外國人ノ訴訟ニハ之ヲ貼用セシメス但シ見行ノ訴訟罨  
紙ノ如キモ亦之ヲ使用セシメサルナリ若シ訴訟罨紙ヲ外國人ニ使  
用セシムル有レハ則チ價直ヲ徵セスシテ之ヲ使用セシム是レ司法  
省ノ稟定セシ例規ナリ故ニ若シ此印紙ヲ外國人ニ貼用セシムルヲ  
要セハ均ク價直ヲ徵セスシテ之ヲ交付セントス又理由書ニハ往往  
牽強ニ近キ説ナキニ非スト雖モ本案ノ要ハ司法卿ノ説明セル如ク  
裁判官ニ其人ヲ得セシメ以テ訴訟ノ延滞ヲ防ントスルモ其増給ヲ  
國庫ニ仰ク可ラサルニ因リ本案ニ賴リテ收入ヲ増サントス尙ホ各  
條ニ係ル質問アラハ他ノ内閣委員モ之ニ答辨スル有ル可シ

○二十一  
番 伊丹 重賢

番外ノ説明ト司法卿ノ演述トヲ聽キ以テ本案ノ大

意ヲ了解シ殊ニ罨紙ヲ印紙ニ換ルヲ賛成ス見行ノ罨紙ハ誤書貼抹等ノ爲メニ紛議ヲ生シ易ケレハ往往ニ改寫ヲ要シ隨テ費用ヲ増加ス訴訟者之ヲ厭フカ爲メニ事情ノ明白ヲ缺クニ至ル又裁判官ノ姓名ヲ誤記スルニ因テ改寫セシメ若クハ裁判官ノ意度ヲ以テ改寫セシムルコト有リ然ルニ印紙ハ先ツ始メニ誤寫行字ヲ訂正シテ之ヲ貼用スルカ故ニ無益ノ損失ヲ致スヲ避ク可シ且ヤ罨紙ハ枚數ヲ豫計シテ遞送配付スルノ煩勞アリ是ヲ以テ本官ノ嘗テ法官タリシ日ニ在テモ早ク已ニ印紙ニ換ント望ミタルコト有リシ是レ本官ノ喜テ本案ヲ賛成スル所以ナリ尙ホ本案ノ各條ニハ多少修正ヲ加フル意見アレトモ其機會ニ至テ之カ動議ヲ提出セントス

○二番 渡邊 洪基

本案ノ旨趣ハ簡單明白ニシテ復々間然ス可キ無シ要ス

ルニ是レ裁判費用ヲ政府ニ負擔セス訴訟者ニ負擔セシムルニ在テ其關係頗ル重ク訴訟者代言人等ニ影響ヲ及ホス甚タ大ナリ夫レ君主專制ノ政體ヲ行フ我國ノ如キニ在テハ國民ヲ保護シ内訌外患ノ爲メニ海陸軍備ヲ修ムル等皆是レ政府ノ職分ニ屬ス故ニ納稅者即チ訴訟者ノ政府ニ依託シテ爭訟ノ曲直ヲ裁判セシムルニ之ヲシテ或ハ冤屈ヲ受ケシムルコト有ルヤ其關係決シテ淺小ナラス例スルニ財主ノ金圓ヲ貸付スルニハ必ス確實ニ契約ヲ立ツ可キモ若シ期限ニ至リ借主ノ辨償セサルトキハ許多ノ印紙ヲ貼用シテ法底ニ告訴スルノ避ク可ラサルヲ豫期シ最初ニ之ニ抵テテ金額ノ幾許ヲ扣斷スル如キノ計ヲ爲シ隨テ財本ノ流通ニ大影響ヲ現セントス是レ皆本案ニ生スル結果ナレハ人民ノ曲直ノ裁判ヲ政府ニ依託スル今



日ニ在テハ深ク此點ニ注意セサル可ラス蓋シ此事ヤ法律及ヒ人智ノ改進シテ始メテ當サニ行フヘキ者ナレハナリ以上ニ陳ル所ハ本案ノ害ヲ數フルニ在リ今又試ミニ本案ノ利ヲ擧ンニ些細ノ事件モ輒チ法底ニ告訴スルノ弊ヲ防ク可ク且既ニ此ノ如ク重多ノ費用ヲ訴訟ニ課スル以上ハ裁判官ノ責任モ一層ニ重キヲ加ヘ法律モ緻密ナルヲ要シ隨テ濫訴健訟ヲ絶ツヲ得ントス今日以前ハ人民ノ政府ニ依頼スル宛モ兒子ノ父母ニ依頼スル如クナリシモ今日以後ハ各自ニ獨立特行ノ氣象ヲ振起スルニ足ル可シ果シテ此ノ如クナラハ人民復タ政府ノ裁判ニ依頼セスシテ金圓ノ貸借其他ノ人事モ皆全ク彼此ノ信用ニ因テ行ハレントス本案ノ利タル亦大ナリト謂フ可シ且夫レ本案ニ頼リテ收入ヲ増シ政府ノ費用ヲ補足セントスル程

度ハ頗ル過多ナルニ似タレトモ司法省定額三百萬圓ヲ訴訟費用ノ

收入ニ仰クヲ程度ト看做シテ可ナレハ本官ハ本案ノ施行ヲ是認ス

○二十七番 清渡邊

本官ハ本案ニ對シテ大賛成ヲ表スル能ハサレトモ

今姑ク之ヲ是認セントス請フ聊カ其然ル所以ヲ陳セン目今各地裁判所ノ景況ヲ聞見スルニ濫訴健訟ノ風習漸ク盛ニシテ法庭ハ俗ニ三百代言人ト稱スル無賴漢ノ救育所タル看ヲ免レス此輩巧ニ良民ヲ教唆シテ妄リニ訴訟ヲ構起セシム若シ外國人ニシテ之ヲ見セシメハ日本裁判所ハ何ソ其レ此ノ如ク煩雜ナルヤト謂ハントス人民ノ權理ヲ保護スル裁判所ノ設ケハ却テ其權理ヲ傷害スルノ具ト爲ルノ結果ヲ見ル有リ慨歎ス可キニ非スヤ舊時ニ在テハ親戚ノ協議若クハ村長里正ノ諭解ヲ以テ大抵事ヲ辨セシニ一タヒ裁判所ヲ開

キタルヨリ親戚相鬩キ隣保相争ヒ訴訟日ニ滋クシテ爲メニ廳舎ノ  
狹隘ヲ覺ヘ裁判官ノ員數ニ不足ヲ感セシム然ルニ其員數ヲ増加シ  
且廳舎ヲ展造スレハ大ニ國費ヲ要スルヨリ之ヲ補充スル方法ヲ講  
究シ以テ本案ヲ立ルニ至レルナリ本官向ニ別席ニ在テ司法卿ノ演  
述ヲ聽キ退キテ之ヲ熟考スルニ印紙稅ヲ以テ司法省ノ定額ヲ補償  
スルハ恐クハ難カラシ何トナレハ本案ヲ發セハ濫訴健訟ハ防止ス  
ルニ足ルモ隨テ訴訟ノ數ヲ減ス可ケレハナリ然ルニ今ヤ僅ニ貳拾  
圓ノ月俸ヲ受ル判事補ニシテ治安裁判所ノ所長タル者アリ豈能ク  
代言人ノ籠絡瞞弄スル所ト爲ルヲ免ルルヲ得ンヤ故ニ適當ノ裁判  
官ヲ置ントスルニハ必ス別ニ收入ノ方法ヲ設ケテ定額ヲ補償セサ  
ルヲ得ス是レ本官姑ク本案ヲ是認セントスト云フ所以ナリ且夫レ

無免許代言人ノ員數ノ如キモ亦宜ク之カ制限ヲ立ツヘク又人民ノ  
財産ノ調査貸借證書ノ公證闕席裁判ノ方法等ヲ定ムルコトヲ要ス  
諸此ノ如キ要件ノ尙ホ未タ全備セサルヲ以テ今日遽ニ本案ニ對  
シテ大賛成ヲ表スル能ハサルナリ併セテ内閣委員ニ質問ス本案第  
四條ニ財産差押ノ文字ヲ掲ケシハ果シテ如何ナル處分ヲ謂フ乎其  
差押ヲ爲スハ何人ニ係ル乎且別ニ此事ニ關スル條例ヲモ設ケント  
スル乎請フ之カ説明ヲ煩ハサン

○外番二番周布公平

財産差押ノ處分ニ關シテハ固ヨリ緻密ノ法律ヲ要ス  
レトモ今日未タ之ヲ設クル有ラス故ニ實際ニ在テハ裁判所ヨリ戶  
長役場ニ照會シ戶長之ヲ處分ス然ルニ此處分タル精密ノ法律ヲ要  
スルヲ以テ主任官今方サニ其立案ニ從事シ且彼ノ闕席裁判法案ノ

如キモ亦均ク其調査ニ着手セル有リ

○九番 神田 孝平

本官ハ本案ヲ已ムヲ得サルニ發スル者ト信シ之ヲ贊成  
ス因テ二點ノ質問ヲ要スル有リ其第一問ハ此印紙ハ大藏省之ヲ發  
賣シ其價金ハ國庫ニ收入シ而シテ國庫ヨリ司法省ニ交付スルカ然  
ルトキハ普通ノ順叙ナレトモ本ト是レ司法省ノ定額ヲ補償スル爲  
メナレハ司法省之ヲ發賣シ其價金ノ收入支出モ亦司法省ニ於テ處  
辨スル乎又其第二問ハ番外一番ノ説明中ニ外國人ニハ印紙ヲ貼用  
セシメスト云ヘリ其理由ハ那ノ點ニ在ル耶内國人ノ外國ニ於テ其  
裁判所ニ告訴スルニハ彼レノ印紙ヲ貼用セサル等ノ的例アルニ由  
ル歟番外一番ハ罨紙ヲモ使用セシメサルヲ以テ印紙モ亦然カスト  
云ヘリ然ルニ罨紙ハ今日ノ如ク百事法理ヲ講明セサル時ニ之カ施

行ヲ始メタル者ニシテ是レ已ムヲ得サレトモ若シ内國人ノ外國ニ  
在テ告訴スルニ彼レノ印紙ヲ貼用スルナラハ外國人ニモ我レノ印  
紙ヲ貼用セシム可キニ似タリ如何ン

○番三番 南部 甕男

九番ニ答ヘン第一問ノコトハ大藏省之ヲ料理シ國庫  
ヨリ司法省ニ交付スルナリ又第二問ノコトハ向ニ司法省ヨリ太政  
官ニ稟議シテ外國人ニハ罨紙ヲ使用セシメサル者ト定メタレハ今  
回ノ印紙モ亦之ヲ貼用セシメスト定メントス大抵各外國ニ於テハ  
訴訟費用ヲ徵收セス而モ間マ之ヲ徵收スル有リ故ニ今後ハ訴訟費  
用ヲ徵收スル邦國ノ人民カ我國ノ裁判所ニ告訴スルニハ我亦之ヲ  
徵收スルコトヲ議約セントスルノ心算ナリ但シ彼此共ニ訴訟費用  
ヲ徵收セサルヲ便利ナリトシ其然スル邦國ノ現ニ多キニ居ルヲ以

テ今先ツ外國人ニハ之ヲ徵收セスト定メタルナリ

○三十番柴原和

本案ハ印紙稅額頗ル過多ナルヲ以テ即今姑ク其發布

ヲ止メテ可ナリト思惟セシモ理由書并ニ司法卿ノ演述ヲ聽キ彼ノ酒造稅ヲ增課シテ海陸軍費ニ充ルト同ク已ムヲ得サルヨリ之ヲ賛成シ以テ國庫ノ缺乏ヲ濟ハサル可ラス司法卿ノ上申書ニハ此印紙稅法ニ因テ其定額費ヲ補償シ且健訟濫訴ノ弊習ヲ矯正セント欲スト云ヘルモ是レ恐クハ其目的ヲ達スル能ハサル可シ何トナレハ訴訟ノ件數ヲ減スレハ隨テ收入ノ金額ヲ減スルヲ以テナリ本官ノ所見ヲ以テスレハ健訟濫訴ノ弊習ハ教育ノ普及スルニ非サレハ則チ得テ一洗ス可ラス本案ヲ以テ矯正セントスル如キ遂ニ其成果ナキヲ知ル要スルニ本案ハ多少其條文ニ修正ヲ加フ可キ者アルヲ以テ

本會ノ終ルニ當リ全部付託委員ヲ置クノ建議ヲ爲サント欲スルモ今先ツ已ムヲ得サルノ點ヨリシテ其大體ヲ賛成スルコト爾リ

○三十七番津田眞道

本官ハ反覆熟考スルモ到底本案ハ非認セサルコト

ヲ得ス尙ホ第二讀會ヲ開クノ日ニ至ルマテニハ更ニ省思ヲ加フ可ケレトモ今聊カ其非認スル理由ヲ概陳セン前司法卿ノ上申書ノ開首ニ訴訟費用ハ訴訟人ヲシテ之ヲ負擔セシム可キ者トスト云ヒ而シテ歐米諸國ノ法制ヲ引證セリ然ルニ我邦ハ建國以來人民ノ訴訟ヲ判斷スルハ之ヲ君主ノ特權ニ屬スルコト此ニ二千五百年ナリ然ルニ一朝此慣習ヲ改メテ遽カニ歐米諸國ノ法制ニ倣ハントスルハ本官其急激ノ變革タルニ憂フル無キ能ハス夫レ歐米諸國ハ立法行法司法ノ三權ヲ分立スルモ之ヲ統ルハ君主ノ特權ニ存シ米利堅ノ

共和政治ト雖モ尙ホ其最大權ハ之ヲ大統領ニ屬ス然ルニ我邦ハ維新以前マテ支那ト同ク立法行法司法ノ三權全ク君主ノ掌握ニ歸シ詞訟裁判ノ如キハ之ヲ地方官ノ職務ニ委セリ此ノ如キハ二千五百年來ノ慣習ニシテ決シテ容易ニ變更ス可キニ非ス彼ノ支那ノ如キモ其國朝ハ屢革命ノ事アルモ此慣習ハ千古變更スルコト無キナリ今此ニ一ノ俚近ナル事例ヲ舉テ之ヲ譬ヘンニ凡ソ都會ノ地ニ在テハ米ハ米店之ヲ鬻キ酒ハ酒肆之ヲ販ク等敢テ他業ヲ兼テスシテ生計ヲ立ルコトヲ得ヘキモ僻地山村等ニ至テハ一店肆ニシテ併セテ米酒鹽醬ヲ賣ルヲ常トス然ルヲ若シ唯專ラ一品ノミヲ賣ルト云ハハ豈能ク生計ヲ立ルコトヲ得ヘキ耶是ヲ以テ今日我邦ニ於テ三權ヲ分立スル如キハ尙ホ早シト信スルナリ試ミニ思ヘ三千五百萬ノ

人民中ニ於テ是非曲直ヲ明辨スル者ハ能ク三百五十萬ヲ得ヘキ歟然リ而シテ頻年訴訟ノ煩多ナルハ代言人ヲ設ケタルノ弊ナリ司法卿ハ別席ニ在テ今日代言人ノ法理ニ明カナルハ遠ク下等ナル裁判官ニ優サルト云ヘリ實ニ然ラン而シテ是レ健訟濫訴ノ禍本ト爲ス本官ノ司法省ニ奉職セシヤ代言人ヲ設ルノ議アリ當時「ボアソナー」氏未タ來ラス外務省ノ雇タル米人「スミス」ニ此事ヲ諮リシニ彼レ曰ク本國米利堅ニ於テハ代言人ノ弊習殊ニ甚ク近來之ヲ廢セントスル議論アルニ會フ日本國ニ代言人ノ設ケ無キハ至幸ナリ今後決シテ之ヲ設ル勿レト本官乃チ之ヲ當時ノ司法卿ニ復命シタリ然ルニ歐米諸國ノ法制ニ模擬スル風潮ニ傾向セルヨリシテ遂ニ之ヲ設ルニ至レリ歐米諸國ノ代言人ハ法學ノ課科ヲ卒業シ法學士ノ

名號ヲ得テ以テ此職業ニ從事スルモ我邦今日ノ代言人ニシテ之ニ適スル者ハ果シテ能ク幾許アル邪今夫レ凡常ノ代言人モ之ヲ普通ノ人民ニ比スレハ其詞訟上ニ於ル知識ハ素ヨリ優レリ彼ノ三百代言人ト雖モ尙ホ能ク法理ノ何タルヲ辨ス故ニ上等ナル代言人ノ學識ノ下等ナル裁判官ニ超越スルハ當然ノ事ニシテ隨テ人民ヲ教唆シテ健訟濫訴ノ風習ヲ醸成ス實ニ是レ無用有害ノ者ナレハ宜ク斷然ニ之ヲ廢スヘク間マ外國人ノ訴訟ニ關シテ代言人ヲ要スル有リトスルモ其人員ハ僅々ニシテ足ルノミ凡ソ民事ノ訴訟ニハ往往事情ノ錯雜セル者アレハ貳拾圓乃至三拾圓ノ俸給ヲ受ル判事補ニシテ之カ裁判ヲ下スノ不適當ナルハ論ヲ待ス故ニ司法卿ノ云ヘル如ク其俸給ヲ厚ウシテ以テ之カ地位ヲ高ウスル爲メニ本案ヲ施シテ

司法省ノ定額ヲ補償セントスルハ敢テ失當ノ方案ナリトハ謂フ可ラス司法卿ハ現行罨紙ノ收入ノ豫算ハ四十餘萬圓ナルニ印紙ヲ發行スレハ一百餘萬圓ヲ收入シ幾ント七拾餘萬圓ノ餘裕ヲ得ル按算ヲ立テタリ然リト雖モ其按算ノ如ク一百餘萬圓ノ收入ヲ得ルヤ思フニ難カラシ何トナレハ實收入ノ豫算額ヨリ減スルハ往往他種ノ課税ニ見ル所ニシテ本案ノ如キモ課額ノ頗ル多キカ爲メニ大抵私際ノ協議ヲ以テ事ヲ辨シ大ニ訴訟ノ件數ヲ減ス可ケレハナリ故ニ某議官ノ云ヘル如ク本案ヲ施セハ健訟濫訴ハ少シク減ス可キモ隨テ印紙税ノ收入ヲ減シ七拾萬圓ノ豫算ハ三拾萬圓乃至四拾萬圓ニ下ラントス今若シ僅ニ三四拾萬圓ノ金額ナラハ別ニ之ヲ得ル方法アル可ク若クハ他ノ費途ヲ約シテ之ニ充ルモ可ナラシ必スシモ本

案ヲ施スコトヲ要セサルナリ本官ハ外國ノ事例ヲ引證スルヲ好マサレトモ我カ司法省ノ三百萬圓ノ定額ハ西洋各國ノ司法省ノ定額ニ比スレハ頗ル寡少ナリトス而シテ其之ヲ増加スルニハ別ニ租稅ヲ課收シテ國庫ヲ補充シ以テ本案ノ如キ急激ノ變革ヲ爲サ、ランコトヲ望ム之ヲ要スルニ我邦ニハ未タ明文ノ民法ヲ布カサルモ亦自ラ慣習法ノ存スル有リ大政維新以前ニハ地方官皆裁判官ヲ兼子而シテ絶テ健訟濫訴ノ弊習ヲ見ス奥羽薩隅ノ地方ノ如キハ全ク民事ノ訴訟ヲ起セルコト無カリシト聞ク然ルニ今日此ノ如ク訴訟ノ煩多ナルヲ致スハ人民ノ智識ノ長進セルニ非スシテ是皆代言人ノ教唆ニ出ルノミ故ニ縱使幸ニ勝訴ヲ得ルモ其利益ハ悉ク代言人ノ吸收スル所ト爲リ初審ヨリ控訴上告マテノ費用ヲ扣除スレハ訴訟

主ハ毫モ得ル無キニ至ル彼ノ三百代言人ト雖モ亦所謂三百ノ利益ヲ得テ之ニ衣食スルニ非スマ故ニ健訟濫訴ヲ防制スルハ別ニ之カ方法ヲ盡ス可キノミ本官ハ已ムヲ得サルヨリ本案ヲ賛成セント欲スレトモ亦然ク已ムヲ得サル者アリテ遂ニ之ヲ非認セサル能ハサルナリ

○二十八番 笑作 麟祥

本案ノ題目ハ民事訴訟用印紙規則ト云フモ本官ハ訴訟稅則ト認ムルナリ是レ訴訟人ハ訴訟費用ヲ負擔ス可シト云フノ意ニ出タルナラン立法行法司法ノ三大權分立ノ說ハ佛國ノ先哲孟底斯鳩ノ首唱スル所ニシテ我カ日本ノ如キモ今日ハ司法裁判權ヲ分立スルニ至レリ蓋シ刑事民事ヲ裁斷スルノ司法裁判權ハ即チ護國治民ノ一大權ト爲ス然ルヲ人民ノ訴訟ヲ爲シテ官府ノ裁判ヲ

仰ク有ルヤ之ニ對シテ重稅ヲ課スルハ本官其道理ノ在ル所ヲ知ラ  
ス凡ソ人民ノ訴訟ヲ起スハ其正當ノ權理ヲ伸暢セントスルニ外ナ  
ラス故ニ其費用ヲ徵セスシテ之カ裁判ヲ與フルハ即チ政府ノ責任  
ナリ今夫レ諸般ノ租稅ヲ課收スルハ護國治民ノ費用ニ充ル者ニシ  
テ司法裁判官ヲ置キテ民事刑事ノ裁判ヲ爲サシムルハ即チ護國治  
民ノ一部事ノミ其宜ク費用ヲ徵セスシテ事ニ從ハシムヘキハ明瞭  
ナリトス輓今ハ實ニ濫訴健訟ノ弊害ナキニ非サレトモ維新以來控  
訴上告ヲ爲スコトヲ許シ以テ務メテ人民ノ權利ヲ伸暢セシメント  
スルナレハ今ニシテ本案ヲ發シ二倍三倍ノ重稅ヲ之ニ課スルハ幾  
ント訴訟禁止稅トモ目ス可キ豈其レ政府ノ責任ニ負ク無カラシヤ  
理由書并ニ司法卿ノ演述ニ依レハ司法省ノ經費ヲ補償スル爲メニ

本案ヲ施ス者ノ如シ本官ハ以爲ラク若シ司法省ノ定額不足ヲ告ケ  
國庫ヨリ之ヲ供給スル能ハスンハ宜ク別ニ他ノ租稅ヲ增課スヘシ  
道理ニ反スル重稅ヲ訴訟者ニ科徵ス可ラスト是レ本案ヲ贊成スル  
能ハサル所以ナリ然レトモ敢テ遽ニ廢棄說ヲ唱ヘス要スルニ本案  
ハ彼ノ徵兵令ノ如ク急施ヲ欲スルナルモ此ニ全部付託委員ヲ置キ  
其廢棄ト修正トヲ論セス十分ニ審査セシメンコトヲ望ム

○三十六番 細川潤次郎

二十八番ハ本案ヲ視テ其道理ノ在ル所ヲ知ラス

ト云フモ本官ハ之ヲ知ル何ソヤ即チ不得已ノ一語是レナリ苟モ已  
ムヲ得ルナラハ固ヨリ已ム可キモ實ニ已ムヲ得サルカ故ニ此已ム  
ヲ得サルノ法案ヲ立タルナリ抑モ此印紙ノ物タル理由書ニモ云フ  
如ク稅ニ似テ稅ニ非ス手数料ニ似テ手数料ニ非サルハ實ニ然リ我



カ帝國ニ於テハ新創ノ事ニ係レハ三十七番ハ廢棄ス可シトマテ論  
 スレトモ本官ハ必スシモ然ルヲ要セスト認ム既ニ數年以前ヨリシ  
 テ上告預金ノ方法ヲモ施行セルナレハ今之ヲ印紙ニ換ルモ不可ナ  
 ル無シ二十七番モ罨紙ヲ印紙ニ換ルハ便利ナリト云ヒ本官モ嘗テ  
 印紙稅ノ事ニ關シテ英國ノ法制ヲ稽查セシニ是レ間稅即チ不直稅  
 ニ部屬セリ故ニ訴訟者ニ印紙ヲ貼用セシムルハ事ニ便利ナレトモ  
 苟モ間稅ヲ訴訟ニ課スルヲ穩當ナラストスルノ論者アリテ本官モ  
 當時暫ク斷念シタリシ然レトモ實際罨紙ノ便利ナラサルハ經驗ニ  
 於テ既ニ明カニシテ今之ヲ印紙ニ換ルトキハ現ニ便利ヲ得ルカ故  
 ニ彼ノ間稅ヲ訴訟ニ課スルノ穩當ナラサル有リトスルモ姑ク之ヲ  
 忍ヒ以テ本案ヲ贊成セサル可ラス但タ其印紙ノ價格頗ル過多ナル

ハ本官ノ不是視スル所ニシテ此ノ如キハ濫訴健訟ノ弊ヲ矯ルニ利  
 スルモ而モ亦人民ノ冤屈ヲ暢ルニ害セントス然ラハ則チ本案ヲ廢  
 棄セン乎司法省定額ノ不足ヲ奈何セン而シテ今日國庫ヨリ此不足  
 ヲ補充スル能ハスト云ハ、本案ノ如キ方法ヲ施行スルモ亦是レ已  
 ムヲ得サルノミ本官向ニ司法省ニ奉職セシ日ニ方リテモ其定額ノ  
 不足ニ困シミ百般ノ思慮ヲ勞シ前司法卿ノ盡力ニ因テ増シテ貳百  
 萬圓ト爲リシ然ルニ本官ノ胸算ヲ以テスレハ少ナクモ三百萬圓ヲ  
 要スト思ヘリ試ミニ佛國ノ例ヲ按スルニ其人民ノ口數ハ我國ヨリ  
 多キ僅ニ拾六萬ニ過キスシテ其訴訟ノ件數モ大抵相似タリ然ルニ  
 其裁判官ノ員數ハ七千人内外ニシテ皆是レ終身任職ノ者ニ係リ司  
 法省ノ定額モ一千萬圓ニ上下ス之ヲ我國司法省ノ定額貳百萬圓ニ

比スレハ五倍ニ居リ裁判官ノ員數モ亦幾倍ニ居ルヤヲ知ラス其懸隔亦甚シト謂フ可シ是レ到底今日歐洲諸國ノ法制ニ模倣スル能ハサル見證ナリ故ニ實際ノ施設如何ヲ考フルニ三十七番ノ云フ如ク行政司法ノ二權ヲ併一シテ地方官ニ委任セン歟既ニ司法裁判權ヲ分立シ其規則方法モ逐次ニ整備セントスルノ時ニシテ今日地方廳中ニ聽訟斷獄ノ課ヲ置クハ事體退歩ノ嫌ヒ有ルヲ免レス因テ斷然本案ヲ施行シ實際果シテ豫圖スル如ク收入ヲ得ルヤ否ヤヲ試ルモ可ナラン又三十七番ハ二千五百年來ノ慣習ニ於テ政府ハ恰モ人民ノ父母タル如ク彼ヨリ訴訟ヲ爲ス無キモ我ヨリ之ニ干涉シテ是非曲直ヲ斷定セルノ例蹟ヲ舉ケ而シテ今日本案ヲ發スルハ急激ノ變革ナリト論スレトモ本官ハ暫ク此等ノ理否ヲ舍キ只唯己ムヲ得サ

ルノ一點ヨリシテ皆ニ本案ノミナラス尙ホ他ノ方法ヲモ試用シテ以テ司法省ノ定額ヲ補償センコトヲ熱望スルナリ

○四十番

三浦安

司法卿ノ上申書説明書等ニ據レハ訴訟費用ハ宜ク訴

訟人ノ負擔スヘキ者ト爲セル如シ然レトモ是レ未タ然ク斷言スル能ハサラン濫訴健訟ノ弊習ヲ矯正スルコトハ暫ク之ヲ舍キ司法卿モ演述セル如ク大審院以下治安裁判所ニ至ルマテ多數ノ裁判官ヲ要スルヨリシテ隨テ劣等ノ人物ヲ使用シ竟ニ許多ノ弊害ヲモ生出スルヲ以テ其人物ヲ精選シ之カ俸給ヲ厚クセント云フハ聽ヲ得ヘキモ其カ爲メニ本案ヲ發シ一百万圓即チ司法省現定額ノ半數ニ均シキ金額ヲ印紙稅ニ得ントスルハ急激ノ變革ト謂ハサル可ラス今日我國人民ノ程度ニ照セハ見行ノ罅紙ヲ沿用セシムルヲ相當ナリ

トス然ルニ司法省ノ定額ニ不足ヲ告ケ國庫ヨリ之ヲ補充スル能ハサルノ一事ハ其措置甚タ困難ナルモ是レ宜ク他ノ一般ノ租稅ヲ増課シテ以テ之ヲ補充スヘキ者ト信ス上申書及ヒ説明書ヲ觀ルモ其旨趣ハ收入ヲ増スノ一點ニ傾キ而シテ政體ノ得失ニ關スル理由ニ於テハ甚タ乏シ故ニ直ニ本案ヲ把テ逐條ニ之ヲ議スルハ未タ大體ニ對スル論旨ヲ盡サ、ルノ憾ミ有リ故ニ二十八番ノ意見ノ如ク全部付託委員ヲ設ケ以テ此困難ナル問題即チ果シテ政體重キ乎若クハ果シテ經濟重キ乎ノ如何ヲ十分ニ審査セシムルコトヲ望ム現ニ刑法治罪法ノ如キ多少改正ヲ要スル有リテ本院已ニ意見ヲ提出セシコトアレハ早晚必ス其改正法ヲ實行スル有ラン然ルトキハ裁判官ノ員數ニモ幾許カ餘剩ヲ來ス可ク且方今ノ時勢ヨリ觀察ヲ下セ

ハ控訴裁判所ノ如キハ或ハ之ヲ廢閉スルモ不可ナル無ラン故ニ愈々全部付託委員ヲ設ケテ本案ヲ審査セシムルノ必要ナルヲ感スルナリ

○番一 番水本  
外 成美

本官ハ前述中ニ取消シヲ請求セサルヲ得サルノ言ア

リ即チ本案附帶ノ理由書ハ本院ヨリ内閣ニ通牒ノ上下付アリシ者ト信セシニ是レ然ラスシテ本院ノ司法省ヨリ借受セリト聞ク本官ノ前述中理由書下付云云ノ語句ハ全ク誤リニ出タル者ナルヲ以テ本院書記官ノ筆記ニ掲クル有ラハ之ヲ改削シ以テ司法卿ノ演述ヨリ説出ス者ト爲サンコトヲ望ム蓋シ此理由書ノ題目ノ如キハ閣議ノ決定セル者ト異ニシテ刑事附帶ノ訴訟ニ印紙ヲ貼用スル一事ニ照スモ其然ルコトヲ知ルニ足ル可シ

○議長 只今番外一番ノ陳述セル如ク此理由書ハ各官ノ参照ノ爲メニ司法省ヨリ借受ケタル者ニシテ多少本案ト旨趣ヲ異ニスル所アリ各官若シ本案ニ疑義ヲ有セハ内閣委員ニ質問シ其答辨スル理由ニ就キテ討議スヘシ而シテ假令ヒ司法卿ノ演述ト旨趣ヲ異ニスルコト有ルモ此議場ニ於テ内閣委員ノ説明スル所ヲ以テ正確ト認ムルコトヲ要ス

○議長 他ニ發議ナクハ第一讀會ハ此ニ畢ヘ以テ二十八番四十番等ノ建議ノ決ヲ取ントス

○三十番 柴原和 本官ハ初メハ本案ヲ廢棄ス可シト思考セシモ今ヤ其實ニ已ムヲ得サル者アルヲ知ルヲ以テ已ムヲ得ス之ヲ贊成スルニ至レリ但タ其印紙金額ノ過多ナルヲ覺ユルカ故ニ全部付託委員ヲ

置キテ十分ニ審査セシムルコトヲ望ム既ニ二十八番ノ此事ヲ建議セル有リ且向ニ司法卿モ本月中ニ議定上奏スレハ實際ニ支障スル無シト云ヘリ故ニ本官モ追テ委員ヲ置クコトヲ建議ス

○議長 二十八番其他ノ建議ニ從ヒ全部付託委員ヲ置キ其審査ヲ加ヘテ報告スルヲ待チ以テ第二讀會ヲ開クニ同意スル議官ハ起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ建議ニ決シ委員ハ五名ト定メ投票ヲ以テ之ヲ選マン

○議長 得票ノ多數ヲ以テ二十一點二十八番 箕作麟祥 十七點四十番 三浦安 十四點二番 渡邊洪基 十四點二十一番 伊丹重賢 十一點三十七番 津田真道 ヲ委員ト

爲ス

○議長 委員ニ告ク本案ハ急施ヲ要スル者ニシテ司法卿モ之ヲ云ヒ  
 本院開院式モ日期ヲ早メテ舉行セラレ當日日本官謝拜ノ爲メ參朝セ  
 シニ務メテ速ニ議定上奏ス可キ旨ヲ承ケタリ委員各位モ此意ヲ體  
 シ勉勵審査ニ從事シ速ニ報告アラシコトヲ望ム本日ハ退散セヨ  
 午後零時四十五分閉場

元老院會議筆記明治十七年一月二十三日

禁傍聽

○第四百二十四號議案 民事訴訟用印紙規則制定ノ儀 第二讀會

議長 東久世通禧

出席議員

- |    |       |
|----|-------|
| 一番 | 鍋島 幹  |
| 二番 | 渡邊 洪基 |
| 四番 | 本田 親雄 |
| 六番 | 渡邊 驥  |
| 七番 | 宮本 小一 |
| 八番 | 井田 讓  |
| 九番 | 神田 孝平 |

十二番	横村 正直
十三番	大久保一翁
十四番	田邊 太一
十七番	福原 實
十九番	河田 景與
二十番	林 友幸
二十一番	伊丹 重賢
二十三番	橋口 兼三
二十四番	大鳥 圭介
二十六番	野村 素介
二十七番	渡邊 清

内閣委員 一番外 参事院議官 水本 成美

二十八番	箕作 麟祥
三十番	柴原 和
三十一番	上杉 茂憲
三十五番	鍋島 直彬
三十七番	津田 眞道
三十八番	海江田信義
四十番	三浦 安
四十一番	西 周
四十二番	長岡 護美
四十五番	神山 那廉

同 二番外參事院議官補 周布 公平  
 同 三番外參事院員外議官補南部 甕男

午前第十時十五分開場

○議長 本日ハ第四百二十四號議案ノ第二讀會ヲ開ク前會ニ選定セ  
 ル全部付託委員ヨリ報告案ヲ提出シ既ニ各位ニ分配シタルヲ以テ  
 其朗讀ヲ省ク且本日內閣ヨリ議長又ハ副議長ノ一人ヲ召喚セルモ  
 議長事故アリテ不參スルヲ以テ本官內閣ニ出頭セントス故ニ四十  
 二番議官ヲシテ本席ヲ保タシム可シ

○二番 渡邊 洪基 只今議長ハ報告案ノ朗讀ヲ省クト宣告セラレタレトモ  
 願クハ書記官ニ之ヲ朗讀セシメンコトヲ

○議長 諾ス

書記官 森山 茂 朗讀

一月十二日第四百二十四號議案第一讀會ヲ終ルノ後全部附託委員  
 ノ選ニ當リ反覆審議スルニ於テ甚タ其去就ニ苦ム者アリ則チ之ニ  
 從ハンカ政治ノ大義ニ反シ之ヲ廢センカ其大義ヲ全フスルノ資ヲ  
 缺ク而シテ又之ヲ修正センカ兩ナカラ其目的ヲ達セス抑政治ノ要  
 タル刑以テ內亂ヲ止メ兵以テ外患ヲ防クノ外曲直是非ヲ判定シ人  
 民ノ權利ヲ伸暢保庇シ冤枉抑屈ナカラシメ以テ社會ノ秩序安寧ヲ  
 護スルヨリ大ナルハナク國稅賦役ノ類國民負擔ノ義務ハ是等數個  
 ノ恩惠ニ報ユルニ非ルハナシ是レ特リ皇國ノ政體古來動カサルノ  
 大義ナルノミナラス佛蘭西國等ニ於テモ辨償ヲ要セスシテ是非曲  
 直ヲ裁判スルヲ政府ノ本務トスルハ彼積弊ヲ矯メテ大政ヲ革新ス

ルノ一大主眼トスル所ニシテ則チ政府ノ大權ニ屬ス唯其政體ノ異ナルカ爲メニ皇國ニ於テハ 天皇陛下ニ在ルノ大權ヲ以テ彼ニ於テハ之ヲ社會ニ歸スルノミ而シテ人民ヲシテ敬依スル所アラシムルニ至リテハ一ナリ若シ夫レ民事ノ裁判ハ特ニ詞訟人一個ノ得失ニ關係スルモノニシテ其費用ハ專ラ詞訟人ヲシテ之ヲ負擔セシムル者ト爲サハ則チ是非曲直裁定ノ權ヲ以テ人民各個ノ私事トシ便宜ヲ以テ假ニ政府ニ委託スル者ノ如ク費額ノ多少ヲ以テ去就ヲ決セシムルニ至リ一方ニ於テハ政府固有ノ義務ヲ缺キ一方ニ於テハ苟クモ動カスヘカラサルノ大權ヲ以テ下ニ移シ政權ノ一致ヲ紊亂スルノ漸ヲ開ク者ニシテ實ニ行フヘカラサルノ新法ナリトス假令ヘ他日國會正ニ興リ人民ノ代議士等國稅ハ一般人民ニ徵スル者ナ

ルヲ以テ供用亦公益ノ爲メニセサルヲ得ス詞訟ハ交互人民ノ間ニ生シ一個各自ノ得失ニ止マル者ナルヲ以テ民事ノ詞訟ニ關スル費用ハ一切國庫ニ仰クヲ得サルヲ主張スト雖モ政府豈之ヲ許ス可ケンヤ然ルヲ却テ政府此大權ヲ以テ下ニ移スノ漸ヲ今日ニ爲ス是之ヲ何トカ言ハン但其事ヲ行フニ當リ履ムヘキノ法式アリ依ルヘキノ規例アリ爲メニ裁制ヲシテ正確ナラシメ訴旨ヲ暢達スルニ特別ノ便宜ヲ付與スルノ事ノ爲メニ要スルノ費用ニ至リテハ假令官衙ノ收入ニ屬スルモ當人之ヲ支辨シ曲者之ニ對償スルハ其所ナリト雖モ其曲直是非ノ裁判ニ至リテハ唯正理アルノミ之ニ對シテ曲者ヲシテ償ハシムルコト能ハス況ンヤ直者ヲヤ是レ特リ理ノ然ルヘキノミナラス政治ノ一大機關トスル所ナリ是ニヨリテ之ヲ觀レハ



本案ノ理由萬有ルヘカラサル者トス強テ之アリトセハ實ニ驚畏ス  
可キノ急激變動ニシテ皇國固有ノ國體制度ニ合セサル者ナリ健訟  
濫訴ノ弊風ニ至リテハ固ヨリ美事ニ非スト雖モ苟クモ是非曲直ノ  
疑ハシキモノアレハ之ヲ法庭ニ問フハ人民各々其權利ヲ重ンスル  
ニ於テ止ムヘカラサル者ニシテ今日訴訟ノ多キハ維新ノ治公平ヲ  
旨トセラル、ノ結果ト云フヘシ但教化未タ洽ク到ラス富有未タ至  
ラサルカ爲メニ此弊ヲ來スナリ宜シク全般ノ政治上ニ於テ漸クニ  
其源ヲ壅クヘキノミ一時苟且ノ手段ヲ以テ強テ之ヲ防止セントス  
ルトキハ人民ヲシテ冤枉抑屈セシメ遂ニ不測ノ弊害ヲ來スノ恐れ  
アリ故ニ曲直是非ヲ裁判スルノ費用ヲ徵收スルハ事理不當ナルノ  
ミナラス以テ健訟濫訴ノ弊ヲ除カントスルニ至リテハ最も當ラサ

ル者トス然リ而シテ司法省定額不足ニシテ舉クヘキノ事業多キヲ  
加フルモ費用給スル所ナク裁判官吏職任ノ貴重ナル相當ノ俸給ヲ  
與フルコトヲ得ス其人民ノ私宅ニ寄寓スルヤ體面ヲ失ヒ私謁ノ弊  
ヲ生スルモ官舎ヲ設クルヲ得ス裁判廳ハ狹隘ナルモ増築ヲ得ス破  
損スルモ改築修繕ヲ得ス刑事ニ關スル證人ノ旅費日當ノ如キ之カ  
立替ヲ爲サ、ルヲ得サルモ其金額ナキ等ノ數項ニ至リテハ今日ノ  
急務本案ヲ議スル者ノ最も苦慮スル所ニシテ實ニ止ムヲ得サル者  
ナリ然リト雖モ此數個ノ事項ノ爲メニ政治ノ大義ニ背クニ至ル其  
得失如何ソヤ若シ止ムヲ得スニハ寧ロ他ノ方法ニ取ラサルヲ得ス  
客歲以來政府本務ノ第一タル海陸軍擴張ノ爲メ諸種ノ稅額ヲ增加  
セラレ賦役ノ法亦嚴ヲ加フ人民ノ苦情思フヘシ猥リニ歲入ヲ増ス

ノ議ヲ建ツヘキニ非ス況ンヤ孛國ノ例ヲ以テスレハ其通常經費ノ行  
政ニ屬スル者一億四千三百萬圓ノ内司法ニ屬スル者凡一千七百五  
十萬圓ニシテ即チ大凡八分ノ一ニ當ル本邦ノ通常經費ノ行政ニ屬  
スル費用ハ六百五十餘萬圓ニ過キスシテ其二百餘萬圓ハ司法ニ屬  
ス即チ大略三分ノ一ニ當ル從來司法ノ定額亦タ甚タ少ナカラサル  
カ如シト雖モ尙之ヲ以テ給スルコトヲ得ス國庫現時ノ歲出ニ於テ  
節減スル能ハストセハ別ニ國稅ヲ増スノ方案ヲ以テ之ニ補填スル  
ハ止ムヲ得サル所ナリトス特リ國稅ヲ増スノ道ニ依ルノミナラス  
彼ノ法式規例若クハ詞訟人特別ノ便益ノ爲メニ設クル所ノ者ニ於  
テ其費用ヲ徵收スルハ苟クモ之ニ對稱スルノ便利アラハ現今ニ倍  
シテ之ヲ徵スルモ可ナリ宜シク訴面ノ金數ト事件ノ種類ヲ斟酌シ

以テ事件ノ難易ト實費ノ多寡トニ基ツクヘキナリ歐米各國ノ裁判  
費用ナル者モ亦蓋シ此主義ニ基ツクモノニシテ曲直裁判ノ點ニ於  
テ余ニ功アル者ハ余必ス賞シ余ニ勞アル者ハ余必ス酬フル彼一個  
人自己ノ得失ニ關スルノ通義ニ基ツク者ニ非ルヲ信ス之ヲ孛國ノ  
例ニ取ルモ其千七百五十萬ヲ費シテ一千二百五十萬ヲ得ル此通義  
ニ基ツクモノニ非ルヲ知ル況ンヤ佛國其他ノ諸國ヲヤ特リ實事然  
ルノミナラス苟クモ此通義ヲ以テスルトキハ曲者ハ之ヲ免レ直者  
即チ勝者之ヲ償ハサルヲ得サルハ尙現今強訴者ノ代言人ノ巧辨ヲ  
博シテ訴訟ヲ起ス者アルト一般ナリ豈此理アラシヤ或ハ本案ヲ修  
正シテ其金額ヲ減セントスルノ議アリト雖モ是レ大ニシテハ政治  
ノ大義ニ背キ小ニシテハ政府所要ノ金額ヲ得ル能ハス是レ其議ヲ

取ラサル所以ナリ抑本案ハ實ニ行政上止ムヲ得サルニ發セラレタル者タルヲ信スト雖モ前陳ノ理由ナルカ故ニ本員等反覆審議ノ上内閣ハ本案ヲ撤シ更ニ政府一體ノ節略ヲ以テ其必要ノ金額ヲ補填スルカ否レハ別ニ増稅若クハ賦課ノ方法ヲ以テ司法上ノ支障ナカラシメンコトヲ祈望スルナリ希クハ此理由ヲ熟慮セラレ撰フ所アラシコトヲ他本案ヲ可否スルノ理由若干ナキニ非スト雖モ其大體ニ關スル者ニ非ルヲ以テ略シテ記セス希クハ此意ヲ亮セラレンコトヲ謹テ報告ス

全部附託委員

- 議官 渡邊 洪基
- 議官 三浦 安

明治十七年一月十八日

- 議官 箕作 麟祥
- 議官 伊丹 重賢
- 議官 津田 眞道
- 議長佐野常民殿

四十二番長岡護美議長席ニ即ク

○議長 副議長ハ内閣ニ出頭セルヲ以テ本官之ニ代リテ此席ヲ保ツ

○二番渡邊洪基 本官ハ全部付託委員ノ一人ナレハ報告案ニ掲クル如ク本案ヲ廢棄ニ付セント欲スルノ理由ヲ補陳セン抑モ本官等ハ本案ノ主義ニ於テ同意スル能ハサル者アリ其主務省ノ上申書ニ曰フ凡ソ民事ノ裁判ハ特ニ詞訟人一個ノ得失ニ關係スル者ナレハ其裁判ニ關スル費用ハ專ラ詞訟人ヲシテ之ヲ負擔セシム可キ者トスト本

案ハ即チ此主義ニ據テ成立シ當然ニ民事訴訟ニ課税ス可シト爲セ  
 リ是レ其之ニ同意スル能ハサル主點ナリ故ニ報告案ニ云フ如ク本  
 案ハ直ニ還上センコトヲ望ム

○番一水本  
成美

前會ニ選定セル全部付託委員ノ報告案ハ檢照ノ爲メ

本官ニ送致セラレ其廢案ニ付セントスル理由ヲ詳領ス本官前會ニ  
 當テハ未タ以テ本案ノ發布ヲ要スル理由ヲ細陳セス且各議官中ニ  
 ハ前會ニ闕席スルモ有ラン故ニ或ハ言ト重複ニ渉ルヲ免レサルモ  
 今ヤ充分ニ其理由ヲ陳辨シテ以テ本案ヲ維持セサル可ラサルニ會  
 ヘリ抑モ本案ハ向ニ司法卿ノ内閣ニ上申シテ其定額ノ増加ヲ請求  
 セシニ起因スルモ而モ内閣ノ本案ヲ起草スルニハ司法卿ノ上申セ  
 ル所ト其理由ヲ異ニスル者ナキニ非ス然ルニ付託委員ハ司法卿ノ

上申書ヲ把テ廢案ノ理由ト爲シ其識其文至リ盡セリト雖モ本官ノ  
 前會ニ於テ説明ノ尙未タ周到セサル爲メニ此駁撃ヲ來セシハ實ニ  
 慙愧ニ勝エス請フ更ニ内閣立案ノ理由ヲ傾聽アランコトヲ夫レ現  
 今司法省ノ定額ハ大ニ不足ヲ告ケ若シ之ヲ増給セサレハ其事務ヲ  
 舉ル能ハス然リ而モ國庫ノ計度ニ於テ此ニ供充ス可キ餘裕アルコ  
 ト無シ試ミニ其定額ノ増加ヲ要スル事實ヲ述レハ第一ニ裁判官ノ  
 俸給ヲ優厚ニシ第二ニ裁判官ノ爲メニ官舎ヲ建造シ第三ニ見存ノ  
 廳廡ハ修繕ヲ加ヘ之レ無キハ新タニ建築シ第四ニ書記ノ員數ヲ増  
 加スル是ナリ然リ而シテ此第一及ヒ第二ノ兩件ニ係ル費用ハ國庫  
 ヨリ増支スル目算ナリ蓋シ裁判官ハ貴重且緊要ノ職員ニシテ性行  
 方正學殖富贍ナル人物ヲ簡擇シ其俸給ヲ優厚ニシテ衣食ニ餘裕ア

ラシメ以テ苞苴干謁ノ弊ヲ防制セサル可ラス現今年俸九百六十圓ノ判事三百六十人自此以下ニ係ル薄俸ノ判事九百九十四人ナリ其甚キハ月俸二十圓ノ判事補ニシテ治安裁判所ニ長タル有リ此ノ如キ薄俸ニ甘ニスル人物ナレハ或ハ貪婪無耻ノ者ナキヲ保セス又不學無識ノ者ナキヲ保セス此等ノ人物ニシテ商家等ニ寄寓スルヨリ竟ニ請託ノ私事モ行ハレ爲メニ裁判ノ公正ヲ失ヒ人民ノ信用ヲ墜スニ至ル故ニ其俸給ヲ優厚ニスルト官舎ヲ建造スルトハ今日ノ急務ニシテ若シ司法省現定額ノ三分ノ二若クハ四分ノ三ヲ此費途ニ供充スルヤ其殘餘ノ一ヲ以テ第三第四ノ兩件タル廳廡ノ修築及ヒ書記増加ノ俸給ヲ支フルニ足ラス且見今書記ノ員數ハ僅ニ八百九十三人ニ過サルニ彼ノ新二大法ノ實施以來書記ノ職務最モ煩劇ニ

赴キ刑事書記ノ現員ヲ以テ幹辦スル能ハサルニ因リ民事書記ヲ之ニ流用シ爲メニ亦民事書記ノ不足ヲ致シ其事務ノ延滞スルヨリ隨テ疎漏誤謬ヲ來スヲ免レス又各地裁判所ノ廳廡多クハ狹隘陋小ニシテ或ハ勸解ト始審トヲ同一廳廡ニ行フ有リ爲メニ裁判判決ノ延滞ヲ招キ加之訴訟ノ件數ハ日ニ増加シ訴訟人ノ待合所ハ狹迫ナルモ展廣スルヲ得ス崩壞スルモ造修スルヲ得ス是レ目今ニ於ル各地裁判所ノ景況ナリ是ヲ以テ此第三及ヒ第四ノ兩件ニ係ル費用ハ之ヲ訴訟者ニ負擔セシメントス即チ付託委員ノ報告案中ニ現今ニ倍シテ之ヲ徵スルモ可ナリト曰ルト同一ノ旨趣ニ出ル者ナリ試ミニ海外一二國ノ例ヲ舉ンニ孛國ノ如キ其司法省ニ屬スル經費ハ千八百八十二年(我明治十五年)ハ一千九百六十九萬零五百二十五

圓ニシテ人民ヨリ徵收セル金額ハ一百六十四萬九千圓ト爲ス此ヲ彼ヨリ扣算スレハ一千八百零四萬一千五百二十五圓ハ全ク國庫ノ支辨ニ屬ス又英國ハ同年ニ於テ其司法省ノ經費ハ二千九百七十四萬六千七百圓餘ニシテ人民ヨリ徵收セル金額ハ三百二十九萬三千七百圓ト爲ス此ヲ彼ヨリ扣算スレハ二千六百四十五萬三千圓餘ハ全ク國庫ノ支辨ニ屬ス而シテ其人民ヨリ徵收スル訴訟費用ハ半ハ金圓ヲ以テシ英ハ印紙ヲ以テスルノ差異アルノミ但シ金圓ヲ以テ徵收スレハ授受ノ煩勞ヲ免レサレトモ印紙ヲ以テスレハ官府モ人民モ共ニ簡便ナリトス本案ノ成立スル理由ハ前陳ノ如シ政府ハ實ニ萬モ已ムヲ得サルヨリシテ彼ノ人民ノ不便ナリトスル印紙ヲ廢シテ之ヲ印紙ニ換ヘ其價直ヲ收メテ以テ司法省ノ需要スル經費ニ

充テ上ハ政府ノ施治ノ大權ヲ墜サス下ハ人民ノ冤枉ノ屈害ヲ除カントス之ヲ要スルニ本案ハ永遠ニ施行セントスルニ非ス後來國庫會計ノ目的確立スルニ至レハ印紙ニ均シキ薄稅ト爲スカ若クハ全ク無稅ト爲サントスルハ即チ內閣ノ豫圖スル所ナリ敢テ請フ本案成立ノ主點タル第一ヨリ第四ニ至ル事項ニ於テ彼ハ國庫ヨリ供充スルニ係リ此ハ訴訟者ノ負擔ニ屬スルノ種別アル所ヲ承領シ以テ本案ニ可決センコトヲ

出席

十一番

楠本 正隆

○四十番

三浦安

本官モ付託委員ノ一人ニシテ本案ヲ廢棄セントスル理由ハ詳ニ之ヲ報告案ニ具セリ要スルニ是レ人民ノ訴訟ハ政府ノ特權ヲ以テ之ヲ裁判ス可ク決シテ裁判官ノ俸給ニ充ル等ノ爲メニ

其訴訟ニ課税ス可ラスト云フニ在リ然ルニ即今番外一番ノ説明ニ據レハ嘗テ司法卿ノ内席ニ於テ演述シ及ヒ番外一番ノ前會ノ説明ハ其未タ周到ナラサリシカ爲メニ報告案ノ如ク廢棄ノ論出テタルナラント云ヒテ更ニ四點ノ件項ヲ舉ケ其第一第二ノ兩點ニ係ル費用ハ國庫ヨリ支辨シ第三第四ノ兩點ニ係ル費用ハ訴訟者ニ負擔セシムルノ旨趣ヲ縷陳セリ果シテ然ラハ本官等ノ意見ト同一ノ趨向ニ出ルヲ以テ本案ハ宜ク修正ヲ加ヘテ之ヲ議定スヘク決シテ遽ニ廢棄ニ付ス可ラサルナリ蓋シ金額ノ多少ニ拘ラス假令ヒ僅ニ一金タリトモ司法卿上申書等ノ旨趣ヲ以テ人民ニ課收スル如キハ即チ是レ我カ帝國ノ政體ニ大變動ヲ來サントスル者ナリ然レトモ即今番外一番ノ説明ノ如クンハ本官復タ廢案說ヲ主張セス但タ其印紙

金額ノ過多ニシテ殆ント裁判税タルヲ免レサルヲ以テ之カ修正ヲ要スルノミ今若シ實ニ人民ノ便利ヲ謀ル爲メニ印紙法ニ因テ費用ヲ收ムトナラハ必ス大ニ其金額ヲ減セサル可ラス内閣委員ノ別席ノ辨明ニ依レハ訴訟ノ件數ニ比例スル印紙收入額ノ豫算ハ百十餘萬圓ナレトモ實計ハ八十萬圓ニシテ見行罫紙收入額四十萬圓ヲ扣除シ見數四十萬圓ヲ得テ司法省ノ定額ニ増加スレハ目今ノ用度ヲ支フルニ足ルト爲セリ試ミニ内閣委員ノ引證セル李英二國ノ例ニ依ルニ英國ノ人民ニ徵收スル金額ハ國庫ノ支辨スル金額ノ一割強ニ當リ李國ハ一割五分ニ當ル此比較ヲ以テスレハ我國モ一割五分内外ヲ適應ナリトス然ルニ我司法省ノ定額二百萬圓ニ對シ八十萬圓ヲ人民ヨリ徵收セントスルハ三割以上ノ比例ニ當ル豈之ヲ過多

ナリト謂ハサルヲ得ンヤ故ニ本官ハ本案ヲ修正シテ二十萬圓乃至三十萬圓ヲ徵收スルニ止メハ見行ノ罫紙ヨリモ二割ヲ増スニ當リ是レ尙ホ稍ヤ多キヲ免レサレトモ目下ノ急ヲ濟フニハ已ムヲ得サル可シト信スルナリ此ノ如ク修正シテ司法省ノ定額ヲ補充スル能ハスンハ其不足額ハ他ノ費途ヲ節約シテ國庫ヨリ支辨シ若クハ別ニ國稅ヲ増課センノミ故ニ本官ハ廢案說ヲ收銷シ而シテ議官各位ノ意見モ本案ヲ修正スルニ決セハ更ニ全部付託委員ヲ設ケテ修正ヲ加ヘシメンコトヲ望ム

退席

三十八番

海江田信義

○二十八番 笑作  
麟祥

本官モ付託委員ノ一人ニシテ廢案ノ報告ヲ爲セリ是レ前會ニ於ル番外一番ノ説明ヲ聞キ司法卿ノ上申書ノ理由并ニ

其別席ニ於テ演述セル旨趣ヲ觀テ本案ノ必ス廢棄セサル可ラサルコトヲ信シテ然セシナリ然ルニ番外一番ハ是レ裁判稅ニ非ス即チ手數料ナリト云ヘリ果シテ然ラハ本官等ハ更ニ意見ヲ一轉セサルヲ得ス思フニ司法卿ノ上申書ニハ本案ヲ施シテ以テ健訟濫訴ヲ防クト云フモ此ノ如キ重稅ニ耐エサル爲メニ冤ヲ飲ミ屈ヲ含ミテ申訴スル能ハサラシムルハ寧口自由ニ申訴セシムルヲ優レリトス今日詞訟ノ繁多ナルハ蓋シ是レ維新以來ノ政治ノ結果ナルノミ人民ノ權理ヲ伸暢スル訴訟ヲ視ルコト猶ホ彼ノ米商會社ノ投機商業ノコトクシ以テ之ニ禁止稅ヲ課ス可キニ非ス又裁判官ノ俸給ヲ厚ウスル爲メニ本案ヲ以テ收入ヲ増サントスト云フモ是レ素ヨリ國庫ノ支辨ス可キ者トス然ルニ裁判官ノ俸給ヲ訴訟者ニ徵スル如キハ今



日各外國共ニ其例アルヲ見ス何トナレハ人民ノ訴訟ノ是非曲直ヲ  
 裁決スルニ之カ税金ヲ課セサル可キハ其憲法ニ明掲スル所ナレハ  
 ナリ然ルヲ若シ上申書ニ云フ如クセハ裁判官ハ人民ノ雇傭者ト爲  
 ルノ觀相ヲ呈セントス以上陳述セル所ハ即チ本官等ノ廢案論ヲ唱  
 フル主眼タル理由ト爲ス然ルニ番外一番ハ其前說ニ反シ廳廨修造  
 ノ經費及ヒ増員書記ノ俸給ヲ補充スト云ヘリ歐米各國ノ裁判書記  
 ハ定額ノ俸給ヲ領受セス訴訟事件ノ輕重ト要求金額ノ多少トニ隨  
 テ手數料ヲ領受スレトモ我國ハ政府ヨリ其俸給ヲ交支ス是レ宜ク  
 歐米各國ノ慣例ニ則トルヘキナリ又廳廨ヲ修造スル經費ヲ訴訟者  
 ニ課收スルハ當然ナレハ報告案ノ如ク論破ス可キニ非ス故ニ果シ  
 テ番外一番本會ノ説明ノ如キ旨趣ナリトセハ本官ハ本案ノ印紙金

額ニハ異見アレトモ見行野紙ノ不便ヲ印紙ノ便ニ換ルハ之ヲ贊成  
 セサル可ラス要スルニ本案ハ増員書記ノ俸給及ヒ廳廨修造ノ經費  
 ヲ訴訟者ニ負擔セシムル爲メニ野紙ヲ印紙ニ換テ其收入金額ヲ増  
 加セントスルニ過キサレハ之ヲ廢棄スルヲ須ヒス然ルニ即今四十  
 番ハ收入金額ノ按算ニ論及シタルモ訴訟ノ事件ト其金額トニ因テ  
 増減スル者ナレハ豫メ之ヲ算定シ得ヘキニ非ス知ラス四十番ハ何  
 等ノ標準ニ據テ算率ヲ立テタルカ是レ地稅等ノ如ク豫算ヲ立テ得  
 ヘキ者ナラス蓋シ本案ヲ施行セハ幾分カ健訟濫訴ヲ減ス可ク此レ  
 減スルハ即チ訴訟ノ件數減スルナリ故ニ本案ヲ修正シテ印紙金額  
 ヲ減シ以テ自由ニ訴訟ヲ爲スコトヲ得セシメハ却テ豫算ヨリモ多  
 數ノ收入ヲ得ル有ラントス本官ハ以爲ラク本案ニ關シテハ內閣委

員ノ前後ノ説明ニ大差異アルヲ以テ宜ク再付託委員ヲ設ケテ審査修正セシムヘシト尙ホ議場ノ景況ニ應シ更ニ建議スル所アラントス

○三十番柴原和

各付託委員ハ縷縷陳辨セル有ルモ例ニ仍レハ原案ト

報告案トノ取捨ヲ決スルヲ本則ト爲ス然ルニ只今報告案ニ關スル理由ノ説明中ニ係レハ本官等發言スル能ハサルカ敢テ議長ニ質ス  
○議長 即チ報告案ニ關スル理由ノ説明中ニ係ルヲ以テ暫ク發言ヲ止メヨ

○番二番周布公平

付託委員等ハ番外一番ノ説明及ヒ司法卿ノ演述等ノ

旨趣ヲ誤解セルヨリ遂ニ廢棄ヲ唱フル報告案ヲ提出スルニ至レルノミ此ノ如ク急施ヲ要スル法案ナルニ多ク日時ヲ費消スルハ憾ム可キナリ然ルニ今日番外一番ノ更ニ本案ノ理由ヲ説明セルニ因テ

四十番二十八番等ノ忽チ其意見ヲ翻シテ本案ヲ議ス可キ者ト云ヘルハ本員等ノ甚タ欣喜スル所トス四十番ハ收入金額ヲ減シテ二三十萬圓ニ止ム可シト豫陳スレトモ請フ粗ホ内閣ノ豫算ヲ舉ケ以テ其然ラサル所以ヲ明サン明治十四年ノ訴訟件數ニ據レハ罨紙ノ收入額ハ五十五萬七千圓ニシテ大藏省ノ費用并ニ罨紙ノ費用ヲ扣除セル實收入額ハ三十九萬三千圓ナリ十五年ニハ總收入額六十四萬圓ニシテ實收入額ハ四十七萬七千圓ナリ十六年ニ總收入額百二十九萬八千圓ニシテ實收入額ハ百十三萬圓ナリシ但タ十六年ハ訴訟ノ件數非常ニ增多セルニ因リ之ヲ以テ將來ノ標準トハ爲ス可ラス故ニ十五年ノ收入額ヲ以テ本案豫算ノ標準ト爲シタリ此收入額内ノ四十萬圓ヲ司法省ノ定額ニ供スレハ其殘餘ハ七萬七千圓ノミ此

ノ如キハ何ヲ以テ他ノ要用ノ經費ニ充スコトヲ得ンヤ十六年ニ收入額ノ俄ニ増加セシハ彼ノ三百若クハ「ムグリ」ト稱スル無免許代言人輩ノ愚夫愚婦ヲ教唆慫慂シテ濫リニ訴訟ヲ構起セシメタルニ因由ス故ニ内閣ニ於テモ代言人取締方并ニ地方官吏心得方ナル檢束法ヲ設ケ以テ此弊害ヲ矯正セントス然ラハ則チ訴訟件數ノ減ス可キハ明瞭ナリ今若シ十五年ノ收入額ヲ根據トセル本案ヲ修正シテ其印紙金額ヲ減スルトキハ遂ニ政府ノ印紙規則ヲ施行スル目的ヲ達スル能ハサラシメントス既ニ付託委員ノ報告文ニモ本案豫算ノ收入額ハ得テ之ヲ減ス可ラサルコトヲ云ヘリ敢テ請フ本案ヲ把テ直ニ逐條ニ議了センコトヲ且夫レ修正委員ヲ設ケテ之ニ修正ヲ付託スルモ印紙金額ニ至テハ各位ノ意見恐クハ同一ニ出サル可シ第

一讀會以來已ニ十有餘日ヲ經過シテ各位モ充分ニ熟査セル法案ナレハ直チニ逐條議ニ移ランコトヲ切望ス

○四十番<sup>三浦安</sup>

番外二番ハ本官ノ前陳ニ對シテ誤解ナリト云ヘリ付託委員ハ決シテ誤解セサルナリ司法卿ノ別席ノ演述番外一番ノ前會ノ陳述共ニ充分ニ周到ナラサルヨリシテ其理由ノ貫徹セサリシノミ強テ之ヲ目セハ寧口誤辨ト謂フ可ク決シテ誤解トハ謂フ可ラス又其印紙金額ヲ減スル修正ノ豫陳ニ對シテ云云シ逐條議ニ移ルヲ請求セルハ内閣委員タル身位ニ在テハ當然ノ辨護ナレトモ司法卿上申書ノ理由ノ如キ付託委員スラ充分ニ領會セサルナレハ直ニ原案ヲ把テ本議場ニ議スル如キ恐クハ其理ヲ盡ス能ハサラン宜ク付託委員七名ヲ置キテ續密ニ審査セシムヘキナリ

○三十番柴原和 本官ハ付託委員ノ報告案ニ關スル理由ノ陳辨中ニ係ルトシテ發言ヲ止メタルニ只今四十番ハ再付託委員ヲ置クコトヲ言ヘリ因テ請フ例ニ仍リ原案ト報告案トノ取捨ヲ決センコトヲ之ヲ建議ス

○議長 辨論頗ル錯雜セルニ似タレトモ仍ホ是レ報告案ニ關スル理由ノ陳辨中ニ係ル三十番モ亦此ノ如ク看做スヲ要ス時正ニ午ニ達ス午餐ノ爲メニ一旦散會シ午後更ニ開會セン各位退場セヨ

正午閉場

午後第一時五分開場

退席

十一番

楠本 正隆

退席

十七番

福原 實

出席

十五番

黒田 清綱

副議長東久世通禧 議長席ニ即ク

○議長 午前ノ續會ヲ開ク午前ニ付託委員ハ報告案ノ理由ヲ縷陳シ内閣委員モ之ニ對シ論辨セル有リ各位此事旨ヲ領シ以テ發議セヨ

○三十番柴原和 本官ハ午前ニ於テ付託委員ト内閣委員トノ論辨ヲ聽クニ原案ト報告案ハ原ト其理由ノ據ル所ヲ異ニス報告案ハ意足り筆到リ本官甚タ之ヲ賛同ス蓋シ本官モ第一讀會以來廢案ノ說ヲ蓄フル者ナリ四十番二十八番ハ本日番外一番ノ説明ヲ聞キ忽チ其思想ヲ變シタルモ本官ノ所見ハ之ト同シカラス看ヨ本案ハ一方ニ在テハ曲者ニ對シテ直者ノ權理ヲ保護スルカ如キモ一方ニ在テハ訴

訟者禁止税ト一般ナル重税ヲ課スルノ失當ナル有ルヲ是レ本官ノ  
本案ヲ非視スル理由ナリ然レトモ上申書ニ掲クル如ク近來裁判官ノ  
員數ニ不足ヲ告クルハ是レ治罪法ヲ施行スル尙早キニ失セルノ罪  
ノミ且判事以下ノ俸給微薄ニシテ人物ヲ得ルニ難ク及ヒ多ク商賈  
等ノ家屋ニ寄寓スルヨリ自然ニ賄賂私謁ノ弊害ヲ生スル等モ實ニ  
然リ過般本院ニ下付セル賭博犯處分法ノ如キ刑法第二百六十條第  
二百六十一條ノ刑ノ輕キニ失スルヨリ一時司法ノ權ヲ殺キテ之ヲ  
行政ノ處分ニ委スルハ素ト失當ノ法案ナレトモ嚴ニ賭博ヲ禁セサ  
レハ強竊盜ノ患害ヲ絶ツ能ハサルヲ以テ各位モ己ムヲ得ス之ヲ議  
定セリ思フニ本案モ亦前陳ノ事情ノ爲メニ己ムヲ得ス之ヲ議定セ  
サル可ヲサル者ノ如シ然ルニ彼ノ司法卿別席ノ演述ハ姑ク措キ今

日內閣委員ノ説明ニ據ルモ本案ヲ施行スルヤ人民ノ感觸ハ其印紙  
税額ノ重キニ苦シミ爲メニ或ハ其權理ニ枉屈ヲ受ルモ敢テ申訴セ  
サルニ至ル如キノ憂ヒ無キニ非ス然レトモ此一施設ニ因テ訴訟者  
扣所ノ新築ヲ得テ風雨ニ暴露サル、コト無ク賄賂私謁ノ跡ヲ絶ツ  
ヲ知ラハ彼レ亦漸ク此印紙税ヲ承認スルニ至ル可シ蓋シ昔時徳川  
氏ノ時ニ於テモ三奉行等ノ訴訟ヲ裁判スルニ當テハ旅店主等ヲシ  
テ容喙セシメサル可キ誓約書ヲ訴訟者ニ徴シ且豫メ費用ノ納致ヲ  
承諾セシメタルコト有リ然ルニ維新以來ハ却テ舊幕府ノ注意ニ及  
カサル有ルハ實ニ憾ム可キナリ是等ノ理由ヨリシテ本官ハ之ヲ取  
舍スルノ腹稿アリ今ヤ再付託委員ヲ置クノ可否ヲ論スル場合ニ非  
ス第二讀會ヲ連開シテ速ニ之ヲ議了センコトヲ欲ス而シテ先ツ例

ニ據リ原案ト報告案トノ取捨ヲ決センコトヲ請フ

○二十一番 伊丹重賢

本官モ付託委員ノ一人ナレハ聊カ一言セン前會ニモ陳述セシ如ク罫紙ヲ印紙ニ換ルハ賛成スレトモ印紙金額等ニ就テハ多少修正ヲ加ヘント欲セシニ爾後委員會ニ於テ仔細ニ審査シ遂ニ報告案ニ具スル理由ヨリシテ廢案說ニ左袒スルニ至レリ然ルニ本日本案ノ理由ニ關シ四十番二十八番等ノ陳辨ヲ聞クニ恰モ本官最初ノ見解ト符合ス因テ本官ノ俄ニ思想ヲ變スルニ非サルヲ辨シ以テ各位ノ疑慮ヲ釋クコト然リ

○二十七番 渡邊清

司法卿ノ別席ニ演述シ及ヒ內閣委員ノ前會ニ説明セル所ヲ以テ本案ノ理由ト爲セハ報告案ノ如ク廢棄論ヲ唱フルハ當レリトス然レトモ經費額ノ點ヨリ觀察ヲ下スニ今日法庭ノ景況

タル若シ別ニ之カ裁制方法ヲ講究スルニ非サレハ縱令多ク其經費額ヲ増加スルモ到底際限ナカル可シ又本案ノ現行罫紙ヲ印紙ニ換ルハ良案ナレトモ其第三條第四條ノ印紙金額ノ過多ナル殆ント禁止稅ト視ル可キ如キハ本官モ付託委員ノ報告案ニ云ヘル所ト感觸ヲ同ウス抑モ方今健訟濫訴ノ此ノ如ク甚キニ至レルハ思フニ裁判法ノ適實ナラサルニ非サル莫キ耶蓋シ真正ノ裁判ハ悉ク成文法ニ據リ事理ノ當サニ然ルヘシトスル所ニ歸セシムルニ在リ是レ裁判ノ貴重且要用ナル所以ニシテ即チ以テ其適實ノ存スルヲ見ル然ルニ今日ノ裁判タル成文法ニ是レ據ルモ徒タ法文ノミニ拘ハリテ區別タル文式等ニ泥メリ而シテ民間ニ在テハ奸黠者ハ樸直者ヲ籠絡シ契約貸借其他ノ事項常ニ瞞弄スル所ト爲リ爲メニ違議爭論ヲ滋

長ス是レ恐クハ健訟濫訴ノ弊患ヲ來セル根源ナラシ此ノ如キハ法律ノ罪ニ非スシテ即チ裁判法ノ適實ナラサルニ坐スルノミ故ニ此弊ヲ除カント欲セハ必ス先ツ裁判法ノ主義及ヒ組織ヲ一變スルコトヲ要ス本官向ニ命ヲ奉シテ地方ヲ巡察セルヤ各地裁判官皆嘆息シテ云フ今日ハ始審ヨリ控訴破毀ニ及フマテ秩序一定セルヲ以テ始審ノ如キハ已ムヲ得ス成文法ヲ是レ履ムノミ遂ニ彼ノ賭博ノ貸借ニ係ルモ苟モ成規ノ貸借證書ヲ具シテ起訴スルトキハ之カ裁判ヲ與ヘサル可カラス其愚弄ヲ受ルヤ實ニ甚シト謂フ可シト加之無智ノ人民ハ彼ノ三百代言人ニ教唆セラレ權理ノ如何ヲ問ハス萬一ヲ僥倖シ以テ妄リニ訴訟ヲ構起ス事實情態此ノ如シ豈能ク健訟濫訴ノ弊患ヲ防制スルコトヲ得ヘケンヤ又司法省經費ノ不足ニ苦ム

ト云フモ是レ自ラ節約ノ方圖ナキニ非ス彼ノ勸解裁判所ノ如キハ其性質司法部ニ屬センヨリモ寧ロ行政部ニ屬ス可キ者トス故ニ勸解調停ノ一事ハ之ヲ戶長郡長ノ掌務ニ付ス可シ又此治安廳ハ始審廳ト異ナレハ特ニ之ヲ開設スルヲ要セス始審廳ノ支廳ト爲スモ得タリトス若シ夫レ違警罪犯ハ警部之ヲ處分シテ可ナリ治安裁判所ニ在テハ三百代言人ノ詐テ原被告ノ親族ト稱シテ上庭スルモ判事補多クハ之ヲ覺知スル有ラス然ルニ勸解ノ事務ヲ戶長ニ委セハ此代言ノ輩ハ復タ詐僞ヲ逞ウスル能ハサラン然ラハ則チ治安廳ハ之ヲ廢撤スルコトヲ得ヘシ蓋シ治安廳タル固ヨリ必要ノ者ニ係ルモ經費節約ノ爲メニ始審廳ニ併合シ初次ノ勸解ハ之ヲ戶長ニ委スルトキハ司法省ノ定額ニ餘裕ヲ生スルヲ得テ十分ニ始審廳ヲ各地ニ

配置スルコトヲ得ヘキナリ故ニ本官ハ本案ヲ以テ罨紙ヲ印紙ニ換  
ヘ而シテ第三條第四條ノ印紙稅ハ手數料ノ名義ヲ以テ徵收スル者  
ト爲シ而シテ其金額ヲ限定スルハ之ヲ再付託委員ノ審査ニ委セン  
ト欲ス

○三十七番 津田 眞道

本官モ付託委員ノ一人ニシテ既ニ第一讀會ニ於テ  
廢棄說ヲ呈シ今日遂ニ廢案ノ報告ヲ爲セシハ委員一致ノ意見ニ出  
ツ然ルニ本會ニ至リ番外一番ハ司法卿ノ別席ノ陳述及ヒ其上申書  
ノ理由ハ皆錯誤ニ係リ以テ今日改テ眞正ノ理由ヲ陳述スト云テ縷  
縷ノ辨アリ而シテ其理由タル本案ニ得ル收入ハ裁判官ノ俸給及ヒ  
官舎ノ建築ニ充ル爲メニ非スシテ即チ裁判廳ノ修造及ヒ増員書記  
ノ俸給ニ充ルニ在リ果シテ然ラハ本官等モ之ヲ承認セサルヲ得サ

レトモ尙ホ聊カ本官ノ意見ヲ略陳セン既ニ番外一番ノ錯誤ナリト  
述シ如ク彼ノ司法卿ノ演述ニ係ル之ヲ以テ裁判官ノ俸給ヲ厚ウシ  
又ハ前司法卿ノ上申セル訴訟者ニ裁判費用ヲ徵收スト云フニ至テ  
ハ實ニ國體國權ヲ打壞スル者ナレハ是レ必ス錯誤タラサルヲ得ス  
若シ強テ錯誤ニ非スト云ハハ即チ報告書ノ首端ニ云フ如ク政治ノ  
大義ニ反スルナリ夫レ人民ノ冤枉ヲ監視シテ其是非曲直ヲ裁判ス  
ルハ政府本分ノ職務ト爲ス凡ソ國トシテ憲法ノ設ケ無キハ無シ只  
之ヲ明文ニ掲クルト否ラサルトハ其國開明ノ程度ニ隨フノミ我日本  
國ノ帝統ハ萬世無窮一系相承ル如キハ素ヨリ明文ニ掲ル無キモ其  
事ノ國憲タルハ決シテ疑議ヲ容ル可キニ非ス即チ日本國民ハ萬世  
無窮ニ此一系ノ帝統ヲ奉戴シ而シテ外國人ト雖モ亦復タ之ヲ承認



ス抑モ天孫降臨ノ世代ニ當テハ所謂神代文字ト稱スル者アリシト  
 云フモ其眞偽ハ得テ明判ス可ラス唯彼ノ三種ノ神器ヲ國憲ノ文字  
 ニ換ヘテ世世相ヒ授受セル有ルノミ而シテ其神器ノ一種タル寶鏡  
 ハ其德昭明ニシテ照徹セサル莫ク即チ今日ノ裁判是レナリ然ルニ  
 内閣委員ハ本案ノ收入金ヲ以テ書記ノ員數ヲ増置スト云ヘリ本官  
 ハ甚タ之ヲ非トス何トナレハ歐米諸國ニ行ハルル裁判書記ノ如ク  
 其俸給ヲ手數料ニ仰ク者トセハ然ス可キモ我邦ノ裁判書記ハ國庫  
 ヨリ其俸給ヲ交支スル儼然タル官吏ニシテ素ヨリ彼レト同視ス可  
 キニ非ス聞ク近來戸長ノ如キモ民選ヲ罷メテ官選ト爲スノ廟議ア  
 リト是レ宜ク然ルヘキノ事タリ要スルニ本官ハ裁判稅ニ均シキ印  
 紙稅ノ收入ヲ以テ純然司法部ノ官吏タル書記ノ手數料ニ充ルト云

フハ到底之ヲ非トスル所ナルヲ以テ内閣ニ於テ一旦本案ヲ撤回シ  
 更ニ考慮ヲ盡サンコトヲ望ム蓋シ廳廡ノ修造及ヒ書記ノ増員等實  
 際其費用ノ度支ニ困シムハ眞ニ然ラン然レトモ此ノ如キハ宜ク他  
 ノ方法ヲ以テ國民ニ徵取スヘキノミ向キニ已ニ陸海軍備ヲ擴張ス  
 ル爲メニ政府ハ釀酒煙草賣藥等ノ増稅法ヲ發布セシニ非スヤ又其  
 事ノ已ムヲ得サル爲メニ本院ニ於テモ之ニ一致シテ議定上奏セシ  
 ニ非スヤ然ルヲ皇上ノ代理官タル裁判官ノ俸給或ハ其他ノ費用ノ  
 不足ヲ補充スル爲メニ裁判稅ニ均シキ印紙稅ヲ課行セントスルハ  
 之ヲ目シテ國體國權ヲ打壞スル者ト爲スモ決シテ過言ニ非サル可  
 シ今ヤ海外各國ト并立シ以テ對等ノ交際ヲ修ムル上ハ軍備ナリ政  
 治ナリ其巨多ノ費用ヲ要スルハ萬モ已ムヲ得サルノミ故ニ内閣ニ

於テモ曾テ司法卿ノ演述シ前司法卿ノ上申セル理由ニ據ラスシテ今日番外一番ノ説明セル理由ニ據レルハ當然ノ處置ト謂フ可シ然ルモ尙ホ本官ノ之ヲ非認スル有ルハ前陳ノ如シ内閣或ハ本案ノ施行ヲ遲緩ナラシムルトキハ目下各裁判所ヲ維持スル能ハスト云フ有ランモ知ラスト雖モ果シテ然ク切迫ナリトセハ一時公債ヲ内國ニ募リ以テ之ヲ支ヘテ可ナリ此ノ如キ重大ノ法案ハ決シテ草卒ニ議了ス可ラス今若シ天壤無窮ノ我日本帝國ノ憲法ニ關係ヲ有スル法律ヲ制定スルニ僅ニ日時ノ遲速ヲ争フ如キハ一冷語ヲ下シテ之ヲ評セハ無遠圖ノ三字ヲ以テセサルヲ得ス是レ本官ノ再回熟考ヲ請ハント要スル所以ナリ

○三十五番 鍋島直彬

本官ハ特別ニ建議ス付託委員ノ報告セル廢案ノ意

見ハ司法卿ノ演述ト前司法卿ノ上申トノ理由ヲ把テ其旨趣ト爲セリ然ルニ今日番外一番ハ更ニ別殊ノ理由ヲ説明セシヲ以テ報告書ハ全ク無効ノ者ト認メサル可ラス若シ第一讀會ニ於テ該理由ノ説明アルニ會ハハ必ス此報告書ノ出ル無カル可シ故ニ此報告書ノ取捨如何ハ之ヲ議場ニ問フヲ須ヒスト信ス請フ更ニ前付託委員ニ再調査ヲ託センコトヲ但タ議長ノ職權ヲ以テ一旦取捨ノ決ヲ取ントナラハ之ヲ取り而ル後此建議ノ如クスルモ亦可ナラン

○八番 井田護

本官ハ初メ本案ヲ通讀スルヤ其廢存如何ノ點ニ注目シ爾後報告書ヲ接手スルニ至リ愈ヨ之ヲ廢棄スルニ決意シ而シテ司法部ノ費用ヲ補フニハ各省ノ定額ヲ減殺シテ之ニ充ル等ノ計度ヲ施シテ可ナリト信セリ然ルニ今番外一番ハ本案ニ關スル四點ノ理

由ヲ擧テ以テ暗ニ前日司法卿ノ演述及ヒ前司法卿ノ上申ノ理由ハ其錯誤ニ出タルコトヲ明カシ隨テ付託委員タル四十番二十八番等ハ再付託委員ヲ設ケテ本案ヲ修正セシム可シト發議セリ然レトモ本官ハ依然此報告書ノ理由ニ同意ヲ取テ動カサルナリ元來本案ハ司法省ノ定額ヲ補フ爲メニ便宜此印紙稅ヲ施行セントスル者トス然ルニ番外一番ハ更ニ各議官ノ思想ヲ移動セシムルカ如キ辨說ヲ下セルモ一般人民ニ於テハ決テ然ル如キ好感觸ヲ起ス無ク且假令本案ヲ修正シテ之ヲ施行スルモ到底司法省ノ按算セル需要ノ金額ヲ收入スル能ハスシテ徒ラニ人民ノ惡感觸ヲ惹ンノミ故ヲ以テ報告書ニ言ヘル如ク司法省需要ノ金額ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ補充シ本案ハ直ニ廢棄ニ付ス可キナリ

○二十八番 箕作麟祥

八番ハ本官等ノ午前ノ陳述ニ關シテ云云セル有ル

モ本官等ハ只番外一番ノ説明如何ニ因テ報告書ノ意思ヲ變セシニ非ス何トナレハ番外一番モ前日司法卿ノ演述セル如キ理由ノミナラハ報告書ノ論理ハ至當間然ナシト認メリ然レトモ本案ノ立意ニ就テ更ニ正當ノ理由ヲ説明セル上ハ本案ハ廢棄セント欲スルモ得ヘカラス是レ本官等ノ午前ニ於テ意見ヲ陳述セル所以ナリ況ヤ報告書ニモ今日番外一番ノ説明ノ如キ理由ニ出ル者ナラハ本案ヲ施行スルモ可ナリト言ヒ而シテ番外一番ハ其點ヲ擧ケテ本案ノ理由ナリト説明セル有ルヲヤ又三十五番ハ報告書ハ無効ノ者ナリト云フモ是レ然ク斷定ス可キニ非ス只其理由異ナレハ隨テ更ニ調査ヲ加ヘサル可ラサルノミ之ヲ要スルニ本官ノ意見ヲ以テスレハ本案

ハ多少其印紙稅額ヲ改更セント欲スルモ全ク廢棄ニ付ス可キニ非  
スト爲ス故ニ聊カ本官等ノ俄ニ思想ヲ變セシニ非サル所以ヲ辨ス  
ルコト爾リ

○十二番 榎村  
正直

本案ニ關シテハ其理由ノ説明ニ錯誤アルヨリシテ此  
報告書ヲ提出セシ者ナルモ今日番外一番ハ更ニ四點ノ事項ヲ擧テ  
是レ本案ノ真正ノ理由ナリト述ヘ而シテ付託委員中ノ二名ハ既ニ  
再調査ヲ加フ可シト發言シ其一名ハ依然廢棄說ヲ主張セリ理由ノ  
説明ニ於テ既ニ前後錯誤アリ且委員中ニ於テモ再調査ヲ加フ可シ  
ト發言セル其報告書ヲ把テ直ニ本案ノ廢存ヲ決スルハ本官ノ最モ  
安ンセサル所ナリ八番ノ如キハ報告案ニ決スルヲ望ムト云フモ試  
ミニ身ヲ内閣ノ地位ニ置キテ之ヲ言ヘハ是レ本案ノ理由ニ非サル

他ノ理由ヲ以テ本案ヲ廢棄スル者ナリトノ駁撃ヲ下サントス然ル  
モ恐クハ本院其答辨ニ辭ナカル可シ故ニ本官ハ付託委員ノ人數ヲ  
増スコト無ク又之ヲ改選スルコト無クシテ更ニ本案ヲ前付託委員  
ニ付託シ以テ調査ヲ加ヘシメンコトヲ望ム因テ三十五番ノ建議ニ  
同意ス

○四十番 三浦  
安

付託委員ノ報告ノ理由ト内閣委員ノ説明ノ理由ト既  
ニ齟齬ヲ致セシ以上ハ本官ハ敢テ報告書ノ旨趣ヲ主張セス且是レ  
不完全ナル者ナルヲ以テ之ヲ拋棄スルモ可ナリトス今ヤ本官等ノ  
主持スル理由ト内閣委員ノ説明スル理由ト全ク符合セルトキハ本  
官等ハ本案ニ同意セサルヲ得ス故ニ此意思ヲ以テ再付託委員ヲ設  
ク可シト發言セシノミ若シ夫レ此主點タル理由ヲ以テ報告書ニ決

スル如キハ本官亦敢テ維持説ヲ主張セサル可シ要スルニ本官ハ始終毫モ吾意ヲ枉ス又内閣委員ノ本會ニ於テ説明セル理由ヲ斥ケサルナリ

○二十四番 大鳥圭介

本官ハ最初ヨリ本案ハ已ムヲ得サルニ成ル者トシテ之ヲ賛成セント欲セシナリ試ニ本案ヲ一讀シ去レハ急激ニ印稅ヲ増課スル者ノ如クナルモ司法省ノ定額ニ不足ヲ告ケ而シテ國庫ヨリ之ヲ補充スル目圖ナクンハ眞ニ已ムヲ得サルノミ假令本案ヲ修正スト云フモ唯是レ印紙金額ヲ減殺スルニ過キスシテ其人民ニ裁判稅ヲ課スルトノ惡感觸ヲ起サシムルハ同一ナリトス故ニ直ニ原案ヲ發布スル歟若クハ報告書ノ如ク全ク之ヲ廢棄スル歟一刀兩斷ノ處分ニ出テサル可ラス付託委員中ニハ善ヲ見テ遷ル有リ又初

意ヲ主持スル有リ然レトモ本官ハ司法卿ノ演述セル理由ト雖モ亦敢テ批駁ス可キニ非スト信ス何トナレハ是レ見今實際ノ事情ヲ演述セルニ外ナラサレハナリ故ニ本官ハ復タ修正ヲ加フルヲ要セス直ニ原案ノ如ク議定センコトヲ望ム

○二番 渡邊洪基

本官ハ報告書ニ具述セル如ク徹底廢案論ヲ持スレトモ必スシモ訴訟ニ關シテハ絲毫ノ費用タモ徵收ス可ラストハ斷言セス即チ手數料ヲ徵收スル如キハ素ヨリ承認スル所ナリ然ルニ第一讀會ニ説明セル理由ハ此印紙稅ノ收入ヲ以テ司法省ノ定額ヲ補充スト云フニ在レハ本官等即チ非認セシナリ然ルニ今日番外一番ハ本案眞正ノ理由ハ手數料ノ主義ヲ以テ印紙稅ヲ課收シ廳廨修造書記増員ノ費用ヲ補充スルニ在リト云ヘリ即チ是レ報告書ニモ認識

スル所トス但シ本案ヲ以テ健訟濫訴ノ弊害ヲ防制セント云フ如キハ亦是レ撞着ヲ免レス故ニ若シ本案ノ如ク過重ノ課税ヲ施シテ收入ヲ増加シ且傍ヲ健訟濫訴ヲ防制セントスル者ナラハ一旦之ヲ内閣ニ還上シ内閣ニ於テ修正ヲ經タル後更ニ下付セラルルヲ以テ妥當ノ順トス然レトモ亦必スシモ此煩勞ヲ要セス本院ニ於テ再付託委員ヲ設ケ以テ之ヲ修正スルヲ得タリトス只其前ノ付託委員ニ再付託ヲ委スルハ穩當ナラサルヲ以テ宜ク之ヲ改選スヘキナリ

○一番鍋島

本官ハ十二番等ト同感ナリ本案ノ理由ノ前會ト本會ト

ニ殊異ヲ存スルニ至テハ決シテ同視ス可キニ非ス然ルニ本案真正ノ理由ニ非サル他ノ理由ヲ以テ直ニ之ヲ廢棄ニ付シ以テ之ヲ上奏スルハ恐ラク失當ナラン然ラハ逐條議ヲ開キテ之ヲ修正ス可キ乎

司法省定額ノ補充ヲ國庫ニ負擔セシテ訴訟者ニ負擔セシムル如キノ嫌ヒ無キニ非ス是亦忽卒ニ議定ス可ラサル者トス須ラク再付託委員ヲ設ケテ之ヲ精査シ以テ修正セシムヘキナリ且其委員モ元來思想ノ變換即チ理由ノ殊異ニ因テ廢棄ト論シ修正ト説クニ外ナラサレハ之ヲ前付託委員ニ委スルヲ可トス只今報告書ノ可否決ヲ取ルハ可ナラス宜ク三十五番ノ特別建議ノ如ク處置スヘキナリ

○八番井田

報告書ノ存廢ニ關シ各議官ノ辨論スル有ルモ是レ本案

理由ノ説明ニ殊異ヲ來セル爲メニ唯付託委員ノ幾名ノ思想ヲ變シタルニ過キス即チ本院ノ議場ニ生出シタル事實タルニ止マルノミ若シ夫レ訴訟ニ關シテ人民ヨリ金圓ヲ供出セシムルカ如キ本案ヲ以テ全國ニ布告セハ其理由ノ如何ヲ問ハス裁判權ハ乍チ下ニ移ラ

ントス報告書中此大權下移ノ一事ヲ憂慮スルノ點ハ本官ノ深ク嘆服スル所ナリ故ニ假令番外一番ノ何様ニ本案ノ理由ヲ辨説スルモ苟モ訴訟税ニ均シキ者ヲ課收スルノ跡ハ得テ掩フ可ラス本官ハ徹頭徹尾報告書ノ旨趣ヲ賛成シ之ニ據テ本案ヲ否決シ以テ上奏ヲ爲サシコトヲ熱望ス

○番一 番水本  
外 成美

今ヤ本官ハ益本案維持ノ説ヲ發セサル可ラサルニ會

セリ八番議官ハ付託委員ノ報告書ヲ是認シ以テ十分ニ其氣勢ヲ張ラント欲スル者ノ如シ然ルニ其印紙税ノ裁判官ノ俸給ニ充ルト訴訟ノ手数料ヲ供スルトノ理由ニ差異アルヲ問ハス一概ニ訴訟ニ關シテ人民ヨリ金圓ヲ供出セシムレハ裁判ノ大權下ニ移ルト斷言セシルハ得テ解ス可ラサルノ言ナリ試ミニ看ヨ人民ヲシテ國税ヲ大藏

省ニ地方税ヲ府縣廳ニ供出セシムルカ爲メニ行政ノ大權ハ乍チ下ニ移ルト云フノ理有リ耶要スルニ八番ノ報告書ヲ賛成スルハ其主眼タル理由ヲ異ニスルニ似タリ蓋シ人民ノ訴訟ノ是非曲直ヲ裁判スルハ即チ政府ノ義務ナルニ其裁判ノ費用ヲ訴訟者ニ徵收スルトキハ政府ノ義務ノ廢スルヨリシテ大權ノ下ニ移ルコトヲ憂慮セルノミ故ニ苟モ之ヲ徵收スル其道ヲ以テスルハ報告書ノ認識スル所ニシテ即チ其第六項ニ今日ニ倍シテ之ヲ徵スルモ可ナリト言ヘル所以ナリ然ルヲ八番ハ恰モ動不動産ノ賣買ノ如ク金圓ヲ供出スレハ其所有權ヲ有スト看做シ報告書ヲ賛成シテ却テ其本旨ヲ誤會シ強テ廢案説ヲ主張セルニハ非サル歟聊カ各議官ノ注意ヲ喚フ爲メニ此言ヲ爲スノミ

○議長 三十五番ノ建議ノ決ヲ取り而ル後ニ報告案ノ決ヲ取ン

○三十番柴原和議長ノ演述ニ關シ一言セサルヲ得ス三十五番ノ建議

ハ其理ナキニ非サレトモ本官ハ此建議ノ行レンコトヲ恐ルルヲ以テ例ニ從ヒ報告案ヲ議題ト爲ス歟將タ原案ヲ議題ト爲ス歟ノ決ヲ取ンコトヲ望メリ但シ三十五番ノ云フ如ク報告案ヲ無効ノ者ト爲スハ不可ナリ既ニ無効ト爲ササレハ必ス之カ決ヲ取ラサル可ラス付託委員中ニ在テモ四十番等ハ再調査ヲ要シ而シテ三十七番ハ始終廢案說ヲ主持スル等其意見岐ヲ生セリ故ニ先ツ報告案ノ取捨ヲ決スルヲ以テ允當ノ順序ナリトス而シテ報告案ノ否ト決セハ即チ再調査委員ハ變シテ修正委員ト爲ス可シ若シ不幸ニシテ可決スルカ如キハ再調査委員ノ或ハ更ニ廢棄ノ報告ヲ提出スル有ンコトヲ

恐ル要スルニ本會ニ於テ番外一番ノ説明ニ因リ本案ノ理由ノ變換セル者ナルヲ以テ須ラク先ツ報告案ノ取捨ヲ決スヘキナリ

○議長 三十番ニ告ク只今ノ陳述ハ其理アレトモ報告案ノ旨趣ハ本案ヲ廢棄セントスルニ在レハ一タヒ之ヲ否決スルヤ復タ三十五番ノ建議ノ決ヲ取ル可キニ非ス三十番ノ望慮ハ無用ナラン此場合ニ於テ先ツ存廢ノ決ヲ取り爲メニ失宜ノ結果ヲ來セシコト有ルナリ

○八番井田讓本官ハ番外一番ノ駁撃ニ答ヘン番外一番ノ説明セル四點中ノ第三第四ノ二點ハ概シテ手数料トハ謂フ可ラス訴訟者ニ裁判稅ヲ徵收スルハ其事實ニ非スヤ又書記ノ如キハ官選ノ判任官ナリ然ルヲ訴訟者ニ徵收スル金額ヲ以テ其俸給ニ充ントスルハ失當ナラスヤ今若シ本案ヲ實施セハ冥冥中ニ裁判ノ大權ノ下ニ移ルハ



數ノ免レサル所ナリ且夫レ本案ノ理由ハ那ノ點ニ在ルモ其發シテ  
 布告ト爲ル以上ハ某某ニハ幾圓某某ニハ幾圓ヲ徵收スルコトヲ示  
 ノミナレハ實際ニ在テハ人民ノ金錢ヲ供出シテ裁判官ニ裁判ヲ爲  
 サシムトノ感覺ヲ生スルハ當然ノ理勢ナリトス本官豈敢テ動不動  
 産ヲ賣買シテ其所有權ノ轉移スルト同視スル有ラン耶聊カ反駁ヲ  
 爲スコト爾リ

○三十五番鍋島直彬 只今三十番ノ云云セル所アルモ本官ノ特別建議ヲ  
 爲セル所以ハ此報告案ハ今日番外一番ノ説明セル理由ニ據テ審査  
 シ以テ報告セル者ニ非ス

○議長 三十五番ノ注意ノ爲メニ一言ス此報告案ハ廢案說ナレハ原  
 案ト比對シテ其存廢取捨ヲ本席ヨリ議場ニ問フ可キニ非ス

○三十五番鍋島直彬 敬諾ス付託委員ノ悉ク本案ヲ是認スルヤ否ヤヲ知  
 ラサレトモ其理由ノ異ナル有レハ縱令過刻本官ノ之ヲ無効ト云シ  
 ハ或ハ過言ナリトスルモ既ニ已ニ其理由ノ異ナル以上ハ再調査委  
 員ヲ設クルヲ當然ノ處置ト信ス之ヲ要スルニ本官ハ更ニ好修正ヲ  
 望ム爲メナラス又再ヒ廢案說ノ出ルヲ恐レ若クハ之ヲ望ム爲メナ  
 ラス唯是レ議場ノ秩序ニ於テ必此建議ノ如クナラサル可ラスト信  
 スルノミ

○二十七番渡邊清 本官モ再調査ヲ望ミ只今尙ホ三十五番ノ陳辨ヲ聽  
 キテ愈其建議ヲ贊成ス

○二番渡邊洪基 前會ニ於ル理由ニ據レハ本案ハ修正ノ加フ可キ者ニ非  
 ス唯全ク原案ノ如ク議場ヲ經過セシム可キ歟若クハ全ク之ヲ廢棄

スル歟ノ二途ノ其一ニ出テサル可ラス是レ此報告書ノ大旨ナリ然ルニ若シ理由ノ異ナル者アラハ必ス爲メニ再調査ヲ加フルコトヲ要ス今ヤ報告書ノ如ク本案ヲ廢棄スレハ撞着ヲ致スヲ免レス又若シ報告書ノ消滅スルトキハ却テ原案ノ旨趣貫徹セサルノ憂ヒ有リ故ニ更ニ再調査委員ヲ設クルヲ當然ナリトス只其再調査ヲ前付託委員ニ委スルハ事實穩當ナラサレハ之ヲ改選センコトヲ企望ス

○議長 今朝以來既ニ充分ノ討論ヲ經タリト認ムルヲ以テ三十五番ノ建議ノ決ヲ取ン但シ其建議ハ前後兩段ニ分テ前段ハ再調査委員ヲ置キ後段ハ前付託委員ニ委スルコトヲ決セン先ツ再調査委員ヲ置クニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 三十五番ノ建議ハ少數ナルヲ以テ消滅ス

○三十五番 鍋島直彬 本官ノ建議ハ本案説明ノ理由ニ前後ノ差異アルヲ以テ再付託委員ヲ置クヲ主旨ト爲セリ敢テ廢案説ノ成立ヲ望ムニ非ス爲メニ一言ス

○四番 本田親雄 本官ノ下付原案ヲ非認セス又司法卿ノ内席ノ演述及ヒ内閣委員ノ前會ノ説明ノ如キモ亦已ムヲ得サル者ト信スルハ二十四番ト略ホ同シ然ルニ付託委員ノ報告モ亦是レ精密ナル調査ナレトモ既ニ本會ニ至テハ其理由ノ異ナル有ル爲メニ再付託委員ヲ置キテ修正セシムルモ唯其印紙稅額ヲ減殺スル等ニ過キサル可ケレハ寧ロ下付原案ニ就テ議決センコトヲ望ム若シ尚ホ修正ヲ要スル議官ハ逐條議ノ時際ニ之ヲ提出シテ可ナラン

○三十七番津田 本官ハ過刻モ陳辨セシ如ク付託委員中ニテ意見岐分セルニ似タレトモ本官ハ最初報告書ヲ發スルヨリ絶テ意見ヲ變スルコト無シ抑モ我邦司法裁判ノ方法タル歐米各國ノ如ク異日若シ民法訴訟法等ヲ頒布スルニ至ラハ彼ノ佛國等ノ制度ニ倣ヒ裁判官ハ行政官ト別異ニシ書記モ代言人等ト同ク訴訟者ヨリ手数料ヲ領收スルモ可ナレトモ今日ニシテ此ノ如ク豹變セントスルハ尙ホ早シ宜ク仍ホ従前ノ慣習ニ沿行スヘキ者アリ今若シ歐米各國ニ行ハルル地方分權ノ制度ヲ執テ之ヲ過度ニ主張シ以テ我國ニ施サントスルヤ大政府ノ經費ハ國民ヨリ徵收ス可キモ府縣廳ハ地方人民ヲ直轄スルノ所ナレハ知事令書記官ノ俸給ハ即チ地方人民ヨリ支辨セシムルヲ當然ナリト云フニ至ル可シ然ルニ歐米各國ト雖モ

行政官ノ施爲ノ權力ハ其手ニ握リ敢テ地方人民ニ左右セシメサルハ即チ今日ノ現状ナリ況ヤ我裁判官タル皇上ノ裁判權ヲ代理スル者ナレハ其裁判ノ費用ヲ訴訟者ヨリ供出セシム可キノ理ナキヲヤ且裁判書記ノ如キモ亦均ク純然タル官吏ナレハ素ヨリ其俸給ヲ訴訟者ニ仰カシム可ラス此ノ如ク本案ハ關係ノ重大ナル議案ナレハ内閣ニ在テハ一旦之ヲ收回シ充分考察アリテ可ナリト確信ス聞ク或ハ戸長モ官選ト爲スノ廟議アリト是甚タ善シ然ルヲ裁判書記ヲシテ一己人タル訴訟者ヨリ其俸給ニ充テ手数料ヲ納レシムル如キハ大ニ我政體ニ反戾スルヲ憂フルナリ

○四十五番神山郡廉 本案下付以來今日ニ至ルマテノ經過ハ本官ノ當職拜命以前ニ係リ議事ノ如何ハ詳ニセサルモ今日初メテ本場ニ參シ

番外一番ノ説明且各位ノ討論ヲ聞キ并ニ既ニ付託委員ノ報告書ヲ  
閲讀シ以テ其實ニ重大ノ關係アル法案ナルヲ知ル然ルニ報告書ハ  
素ヨリ本官ノ非認スル所ナルモ本案ニ就テ直ニ修正ヲ加フ可シト  
云フノ説モ亦恐クハ難事ナラントス因テ本官ハ二十四番等ト同ク  
直ニ原案ノ如ク議定センコトヲ望ム

○議長 他ニ發議ナクンハ報告案可否ノ決ヲ取ン之ニ同意者ハ起立  
セヨ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ報告案ハ消滅ス

退席

十五番

黒田 清綱

○議長 報告案已ニ消滅シタルヲ以テ下付原案ヲ議題ト爲シ直ニ其

第二讀會ヲ開ク可シ但シ時晷既ニ第四時ニ迫リタレハ本日ハ散會  
シ明日例刻ヨリ開會セン各位退場セヨ

午後第三時五十分閉場

元老院會議筆記 明治十七年一月二十四日

禁傍聽

○第四百二十四號議案

民事訴訟用印紙規則制定ノ儀

第二讀會

一月二十三日ノ續會

議長 東久世通禧

出席議員

- |    |       |
|----|-------|
| 一番 | 鍋島 幹  |
| 二番 | 渡邊 洪基 |
| 四番 | 本田 親雄 |
| 六番 | 渡邊 驥  |
| 七番 | 官本 小一 |
| 八番 | 井田 讓  |
| 九番 | 神田 孝平 |

- 十二番 榎村 正直
- 十三番 大久保一翁
- 十四番 田邊 太一
- 十五番 黒田 清綱
- 十七番 福原 實
- 十九番 河田 景與
- 二十番 林 友幸
- 二十三番 橋口 兼三
- 二十四番 大鳥 圭介
- 二十六番 野村 素介
- 二十七番 渡邊 清

内閣委員 一番 参事院議官

水本 成美

- 二十八番 箕作 麟祥
- 三十番 柴原 和
- 三十一番 上杉 茂憲
- 三十五番 鍋島 直彬
- 三十七番 津田 真道
- 三十九番 伊集院兼寛
- 四十番 三浦 安
- 四十一番 西 周
- 四十二番 長岡 護美
- 四十五番 神山 郡廉

同 二番 參事院議官補 周布 公平

同 三番 參事院員外議官補南部 甕男

午前第十時十五分開場

○議長 本日ハ第四百二十四號議案ノ第二讀會ヲ開ク

○八番 井田 本官ハ本會ノ初メニ當リ一應意見ヲ陳述セン昨日内閣

委員ハ本案ノ理由ナリトシテ第一讀會ニ説明セシ理由ニ異ナル理由ヲ説明セルカ故ニ報告案ノ成立セサリシハ遺憾ナリ抑モ内閣委員ハ此印紙稅ハ手數料ノ名義ヲ以テ收入シ而シテ之ヲ増員書記ノ俸給及ヒ廳廨修造ノ費用ニ供充スル者ナリト云フモ是レ唯本院議場内ノ説明ニ過キスシテ其一タヒ全國ニ布告スルヤ裁判費用ヲ徵收スルノ形跡ハ得テ掩フ可ラス是レ本官ノ廢案說ノ第一理由ナリ

又今日ニ在テ本案ヲ施行スルハ時機尙ホ早シ是レ其第二理由ナリ又我日本ノ法律ハ未タ完備セス即チ刑法治罪法ハ頒布セルモ民法商法訴訟法等ハ未タ之ヲ制設スルアララス故ニ若シ人民ニシテ吾儕ヲ管治スル法律ハ尙ホ此ノ如ク完全ナラサルニ裁判費用ヲ徵收セラルルハ甘受セサル所ナリト云ハハ政府ハ何ノ言辭ヲ以テ之ニ答ヘントスル乎是亦第三ノ理由ナリ且方今外國ニ對スル條約改正ノ舉ハ未タ果サス所謂治外法權ナル者ノ存シテ我日本帝國ノ法律ヲ居留外國人ニ及ホスコト能ハス然リ而シテ彼等ノ口實ト爲ス所ハ日本ノ法律ハ不完全ナリ日本ノ裁判官ハ不熟練ナリ故ニ其裁判ヲ受ルハ吾儕ノ欲セサル所ナリト云フニ在リ是レ本案ヲ非視スルノ第四理由ナリ敢テ請フ

○議長 八番ニ告ク報告案ハ昨日既ニ消滅セリ然ルニ即今八番ノ陳述スル所モ亦同ク廢案説ニ非スヤ

○八番 井田讓 報告案ハ其根據スル理由ノ齟齬ヨリシテ消滅セルノミ

今本官ノ提出スル説ハ昨日内閣委員ノ説明セル理由ニ對シテ之ヲ唱フルナリ敢テ既ニ消滅セシ報告案ヲ維持スルニ非ス願クハ陳述ヲ許サレンコトヲ

○議長 然ラハ發言スルヲ妨ケス

○八番 井田讓 敢テ請フ各位ノ本官ニ同意シテ此意見ヲ賛成センコト

○四番 本田親雄 本日ハ第二讀會ノ初メナレハ書記官ノ朗讀ヲ待テ逐條ニ發議ス可キ者トス故ニ若シ廢案説ヲ提出セントナラハ宜ク第三

讀會ノ初メニ於テスヘシ只今八番動議ノ如キハ本官管ニ之ヲ賛成セサルノミナラス素ヨリ議場ニ成立セサル者ト信スルナリ

○議長 八番ノ動議ハ賛成者無キヲ以テ消滅ス  
書記官 森山茂 朗讀  
布告案

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年 月 日ヨリ施行ス

但明治八年 月 日 第百九拾六號布告訴訟用罫紙規則及ヒ明治十年

月 日 第拾九號布告控訴上告手續第十六條ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○二十三番 橋口兼三 原案ノ骨子ト爲ス所ハ訴訟ニ關シ印紙金額ヲ徵收



スルニ在テ存ス然ルニ其布告文ニ民事訴訟用印紙規則ヲ制定スト云ヒ以テ簡單ニ人民ニ約束スルヲ以テ人民ハ以爲ラク訴訟ヲ起シテ裁判ヲ仰クニハ幾許ノ印紙金額ヲ納メサル可ラス此金額ハ即チ裁判稅ナリトスルノ感想ヲ懷クハ得テ免カル可ラス故ニ本官モ其初メハ廢案ノ意見ヲ持シタリ付託委員ノ報告書ニ日本ノ國體ニ於テ君上ノ固有ニ係ル裁判ノ大權ヲ下ニ移スト論セシハ眞ニ敬服スル所トス只奈何セン其根據スル理由ニ齟齬ヲ致ス有リテ不幸ニモ該案ノ消滅ニ歸シタルコトヲ然ルニ今ヤ本案ヲ議スルニ當テハ亦必ス報告書ノ旨趣ニ依ラサル可ラス昨日内閣委員ハ裁判稅ニ非ス即チ手数料ナリト説明セルモ此理由タル法律ノ文面ニ表見スルニ非サレハ人民ハ決シテ然ク認メサルナリ是ヲ以テ本官ハ此布告文

ヲ修正セント欲シ其文案ハ議長ノ椅下ニ呈シタリ書記官ニ之ヲ朗讀セシメンコトヲ請フ

書記官

森山茂

朗讀

修正案

民事訴訟ニ屬スル費用ノ幾分ヲ訴訟人ニ負擔セシムルヲ以テ印紙

規則別紙ノ通制定シ明治十七年 月 日ヨリ施行ス

○二十三番

橋口兼三

尙ホ補陳センニ某議官モ論スル如ク本案ノ印紙金

額ハ實ニ手数料ナリト云フモ究竟裁判ニ關スル費用ニ外ナラス彼ノ治罪法ニモ裁判ニ關シテ其費用ヲ被告人ニ徵收スルコト有リ然ルニ今日刑事ノ被告人ハ多クハ貧窶者ニ係レハ官府爲メニ其費用ヲ那移支辨スルモ遂ニ其償納ヲ得ル能ハサルハ頻頻ニ之レ有リ前會ニ於ル内閣委員ノ説明中ニモ刑事ニ關シ證人鑒定人其他關係人

等ノ召喚費用モ司法省那移支辨シ而シテ被告人之ヲ償納スル能ハ  
 ス隨テ其證人關係人ニ損害ヲ受ケシムト云ヘリ元來民事ニ關シ被  
 告人ヲ召喚スルニハ裁判所ノ使丁ヲ以テシ其送達費用ハ被告人ニ  
 支辨セシムルモ證人鑒定人其他關係人等ノ召喚費用ハ官府之ヲ支  
 辨スルノ例規ナルヲ以テ本案第三條第四條第五條ノ如キ訴訟者ヨ  
 リ請求スル場合ニ其費用ヲ徵收スルハ當然ナリ又其第二條ノ印紙  
 金額ニハ裁判官ノ實地檢査ヲ行フ費用マテモ包括スルナレハ之ヲ  
 徵收スルモ亦當然ナリ蓋シ控訴上告ニ二倍三倍ヲ増加スルハ頗ル  
 過多ナルニ似タレトモ彼ノ山林境界ノ爭論ノ如キハ大抵裁判官其  
 實地ニ赴キテ檢査ヲ行フ者ニシテ里程或ハ數十百餘里ニ延及スル  
 コト有リ單ニ判事ノ並旅行費ノミヲ以テ之ヲ言フモ百圓乃至百五

十圓ハ立地ニ消用セサル可ラス然レハ則チ此印紙金額モ決シテ過  
 多ナリトハ謂フ可ラス起立ノ便次ニ聊カ此意ヲ贅陳ス

○十五番 黒田清綱

穩當ナル修正ナリ之ヲ賛成ス

○議長 二十三番ノ修正ハ賛成アリ問題ト爲ス

○四十番 三浦安

請フ書記官ヲシテ今一回二十三番ノ修正文案ヲ朗讀

セシムルヲ

書記官 森山茂 朗讀

民事訴訟ニ屬スル費用ノ幾分ヲ訴訟人ニ負擔セシムルヲ以テ印紙

規則別紙ノ通制定シ明治十七年 月 日ヨリ施行ス

○二十八番 箕作麟祥

二十三番ノ修正說ハ今正ニ問題ト爲レリ向ニ付託

委員席ニ於テモ布告文ニ修正ヲ加ヘ訴訟人ニ便益スル爲メト云フ

ノ意思ヲ掲ケント欲セシコト有リ此點ヨリ之ヲ論スレハ二十三番ノ動議ハ善ク肯綮ニ中タルモ元來此旨趣ハ之ヲ布告文ニ掲ク可キ歟若クハ第一條等ニ掲ク可キ歟本官甚々其處置ニ惑フ思フニ此動議ハ其旨趣ハ善美ナレトモ其之ヲ掲ル位置及ヒ行文ニ至テハ未タ其宜キヲ得サルヲ覺フ是レ本官ノ遽ニ賛成スル能ハサル所以ナリ蓋シ訴訟人ニ便益スル爲メト云フノ意思ヲ以テスレハ控訴上告ニ二倍三倍ヲ増加スルハ過多ナルヲ免レス是必ス修正セサル可ラス故ヲ以テ本官ハ二十三番ノ動議ノ旨趣ヲ貫徹セシメ且此等ノ修正ヲ加ヘント欲ス故ニ全部付託委員ニ非スシテ更ニ全部付託修正委員ヲ設ケ而シテ昨日内閣委員ノ説明セル理由ニ據テ調査修正セシメンコトヲ建議ス

○三十番柴原和

二十三番ノ動議タル其旨趣ハ善良ナレトモ其修正文ハ宛モ布告文ノ註釋ヲ下セルニ似タリ此ノ如キ文字ヲ布告案ニ挿入スルハ人民ニ對シテ分疏辨解ヲ爲スノ看ヲ免レス即チ明治十三年第四十八號布告ニ於テ地方ノ政務ヲ改良スルノ要用ナルヲ察シト云ヘル如キ均ク此嫌ヒ有リトス但シ此十三年ノ布告ハ本院ノ檢視ニ付セラレ當時別席ニ於テ其分疏辨解ニ似タルノ不可ナルヲ評論セシコト有リシ故ニ只今二十三番ノ動議ニハ賛成ヲ表スル能ハス

○議長 今先ツ二十八番ノ建議ノ決ヲ取ン更ニ全部付託修正委員ヲ設ル建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 少數ナルヲ以テ二十八番ノ建議ハ消滅ス

○四十番 三浦安 二十三番ノ修正說ハ其旨趣頗ル可ナレトモ未タ之ニ

同意スル能ハス内閣委員ハ第一讀會ニ於ル理由ノ説明ヲ收銷シ更ニ昨日第二讀會ニ當リ新タニ他ノ理由ヲ説明セリ凡ソ理由ヲ説明スルニ其最モ重要ナリト認ムル所ノ者ヲ舉ルハ人人ノ常情ナレハ内閣委員ハ第一讀會ニ於テ其最モ重要ナリト認ムル理由ヲ舉テ説明シ而シテ本院付託委員ノ報告書ヲ提出スルニ及ヒ第二讀會ニ於テ又其最モ重要ナリト認ムル理由ヲ舉テ説明セシナル可シ本案果シテ第一讀會ニ説明セシ理由ヨリシテ成立シタルナラハ必ス大ニ修正ヲ加ヘサル可ラス即チ民事云云ノ文字ノ尤モ修正ヲ要スル如キ是ナリ二十三番ノ修正ノ註釋文字ヲ布告案ノ端首ニ掲ケ出スハ

本官ノ欲セサル所ナリ且其語句モ未タ妥貼セサルカ故ニ本官ハ民事訴訟用書類云云ト爲シ此書類ノ二字ヲ加フル修正ヲ豫陳シ二十三番ノ動議消滅セハ直ニ之ヲ提出セントス

○番二番周布外 現問題タル修正文案ニ關シテハ本員等ニ於テモ必ス

之ヲ不是ナリト駁撃スルノ理由ヲ有セス然レトモ某議官モ云フ如ク此修正文ハ布告文ノ註釋タルニ過キス故ニ敢テ抗辨スルニ非サルモ亦其修正ヲ加フルノ必要ヲ見ス若シ實ニ此註釋ヲ必要ナリトセハ主務省ノ布達又ハ訓示ヲ以テ此旨趣ヲ人民ニ了解セシムルニ於テ他ノ方法ナキニ非サルナリ

○二十四番 大鳥圭介 二十三番ノ修正ハ頗ル深切ノ意思ニ出タルモ元來布告文ニハ此ノ如ク其立案ノ理由ヲ註釋ス可キニ非ス彼ノ可使由

之不可使知之ノ格言ノ如ク秘密中ニ妙味ノ存スル有リ然リト雖モ  
 原案ヲ以テ布告セハ人民ノ惡感觸ヲ惹クノ不可ナル有レハ番外二  
 番ノ云フ如ク司法卿ノ訓令等ヲ以テ此旨趣ヲ人民ニ曉解セシムル  
 ヲ得タリトス抑モ獨リ本案ノミニ限ラス凡ソ法律ヲ制定スルニ當  
 リ其明文ヲ以テ之カ理由ヲ分疏スルトキハ其精神ヲ弱ムルヲ免レ  
 ス故ニ二十三番ノ聖慮スル所ハ司法卿適宜ニ之カ處置ヲ爲シテ可  
 ナリ是ヲ以テ現問題ニハ同意セサルナリ

○三十七番 津田  
眞道

本官ハ昨日マテ本案ニ對シテ廢案說ヲ主張シタリ  
 シモ同意少數ノ爲メニ消滅セシハ遺憾ナリ既ニ内閣委員ノ理由ノ  
 説明ニ前後差異ヲ生セシナレハ幾分カ修正ヲ加ヘサル可ラサルハ  
 三尺ノ童子モ知ル所トス又過刻二十八番ノ建議ノ同意少數ノ爲メ

ニ消滅セシハ已ムヲ得サレトモ原案ヲ以テ直ニ人民ニ布クハ本官  
 ノ甚タ安ンセサル所ナリ問題發議者ノ云フ如ク第三條第四條第五  
 條ニ於テ手数料ヲ徵收スルハ當然ナレトモ第二條ニ於テ殆ント裁  
 判稅トモ稱ス可キ印紙金額ヲ徵收スルハ前後蟠錯ノ旨趣ニ出ルヲ  
 免レス昨日内閣委員モ本案ハ日後ニ改正若クハ廢止スルコト有ル  
 可シト云ヘルハ定メテ此點ヲ思考セルニ由ルナラン凡ソ法律ハ宜  
 クカメテ充分ニ精査シ以テ朝令暮改ノ弊害ヲ絶ツコトヲ要ス設令  
 數十百年ニ亘ル不朽不易ノ法律ヲ制定スルハ容易ニ望ム可キニ非  
 サルモ今年ノ法律ヲ明年ニ改更スル如キハ豈是レ政府ノ體面ヲ損  
 スル莫キヲ得ンヤ然リ而モ今ヤ本官復タ奈何トモスル能ハス只聊  
 カ一片ノ婆心ヲ絮述スルノミ

○二十七番 渡邊清

三十七番ノ説ク所ハ本官モ同感ナリ二十八番ノ全部付託修正委員ヲ置ントスル建議ハ同意少數ニシテ消滅セシモ元來本案ハ其理由前後殊異ナリシヲ以テ付託委員モ思想ヲ易ヘタルノミ今ヤ本官ハ廢棄修正其果シテ孰レヲ是トス可キヤヲ知ラサルヲ以テ更ニ全部付託調査委員ヲ置ンコトヲ建議ス是レ即チ本案ノ廢棄ト修正トヲ其審斷ニ委シ以テ十分ニ調査セシムル爲メナリ

○二番 渡邊洪基

二十三番ノ修正説タル其旨趣ハ本官之ヲ是認スルモ位置及ヒ行文ノ妥當ナラサル爲メニ同意スル能ハス蓋シ本案第二條ノ如キハ獨逸ノ制度ニ比スルモ權衡ヲ得ス且其控訴上告ニ加倍スル等ハ外國ニモ其例アルヲ聞サルナリ是ヲ以テ十分ニ調査修正ヲ加ヘンコトヲ欲シ二十八番ノ建議ニ起立セシモ同意少數ノ爲メニ

其建議ハ成立セサリシ今ヤ幸ニ二十七番ノ建議ヲ爲スニ會ヒ本官深ク其成立センコトヲ望ム之ヲ要スルニ本案ハ外國人ニモ關涉スル者ナレハ此ノ如ク權衡ヲ得サル者ヲ徑チニ發布ス可ラサルナリ

○四十番 三浦安

本官等ノ報告ノ大旨ト内閣委員ノ説明ノ主義ト符合スルニ至リシハ内閣委員ノ其理由ヲ改良セルナリ蓋シ内閣委員ハ初メヨリ此理由ヲ蓄ヘタルナランモ其真正ノ理由ヲ喚起セシハ報告ノ功效ノミ實ニ前理由ヲ以テスレハ本案ハ必ス廢棄セサル可ラス然ルニ後理由ニ據レハ之ニ修正ヲ加ヘテ成立セシムルハ當然ナリトス其理論ハ既ニ盡キタルモ其調査ハ未タ到ラサレハ二十七番ノ建議ハ眞ニ本院ノ體面ヲ守レル深切ノ發議ト謂フ可シ故ニ賛成セサラント欲スルモ得ヘカラサルナリ

○三十番柴原和

二十七番ノ建議ノ旨趣ハ當然ナレトモ是レ今日ノ議

場ニ上ル可キ者ニハ非ス何トナレハ即チ廢棄ト修正トヲ決スルノ  
 調査ヲ爲サントスルハ昨日第二讀會ノ議場ニ上リテ已ニ消滅セシ  
 三十五番ノ建議ト同一ナルヲ以テナリ唯其此ト異ナルハ之カ決ヲ  
 取ラサリシノミ故ヲ以テ第二讀會ニ於テハ廢棄ノ一事ハ既ニ否決  
 セシヲ以テ其問題ハ再ヒ本會ノ議場ニ上ル可キ者ニ非サルヤ知ル  
 可シ各官ノ聖慮スル各點ハ逐條議ノ時ニ際シ修正スレハ足ル今特  
 ニ全部付託調査委員ヲ置クノ建議ハ頗ル違例ナル可シ

○二十八番箕作麟祥

本官ノ建議ハ不幸ニモ消滅セシモ只今二十七番ノ

全部付託調査委員ヲ置ントスルノ建議ハ一層深切ノ意見ニ出ル者  
 ナルヲ以テ本官ハ喜テ之ヲ賛成ス三十番ハ此建議ノ本會ノ議場ニ

上ル可ラサルコトヲ論スレトモ本官其故ヲ解スル能ハス實ニ此建  
 議ハ當然ニ本會ノ議場ニ上ル可キ者ト確信ス蓋シ修正委員ト爲ス  
 トキハ或ハ一字一句タモ修正セスシテ原案ノ如ク報告スルコト有  
 ル可キモ調査委員ト爲ストキハ廢棄ナリ修正ナリ十分ニ其意見ヲ  
 以テ調査スルコトヲ得シ是レ二十七番ノ建議ノ本會ニ於テ成立ス  
 可キ所以トス且又三十番ハ逐條議ノ時ニ際シテ修正セハ足ルト云  
 フモ本官ハ其修正ノ周到セサルコトヲ恐ル又二十三番ノ動議モ位  
 地及ヒ行文ノ妥當ナラサル爲メニ消滅ニ歸ス可キノ憂ヒ有レハ愈  
 以テ二十七番ノ建議ノ如クセサル可ラス加之今ヤ既ニ第二讀會ニ  
 係ルモ尙ホ内閣委員ニ質問セサル可ラサル者アリ究竟此ノ如キ大  
 議案ナレハ十分鄭重ニ審議調査ヲ加ヘンコトヲ望ム

○十五番 黒田清綱 本官ハ二十三番ノ動議ヲ賛成シタルカ爾來二十八番

ノ建議出テ消滅シ今又二十七番ノ建議出テ三十番ハ本議場ニ上ル可キ者ニ非スト論難ス本官ハ特別建議ナレハ敢テ支障セスト認ムルナリ既ニ八番ノ如キハ過刻他ノ旨趣ヲ以テ廢案說ヲ提出セシニ非スマ因テ二十七番ノ建議ヲ賛成シ以テ其成立センコトヲ希望ス

○三十番 柴原和 全部付託修正委員ト全部付託調査委員トノ差別アリ

テ修正ノ名義ナケレハ廢棄說ヲ主張スルモ可ナリ若シ修正ノ名義アレハ廢棄說ヲ提出スルヲ許サス是レ本院ノ慣例ナルヲ信ス二十七番ノ建議ハ本官之ニ惑フ無キ能ハス蓋シ逐條議ヲ以テスルヤ或ハ修正ノ周到セサルヲ憂フトナラハ全部付託修正委員ヲ置モ可ナリ廢棄說ハ既ニ本會ノ議場ニ顯出シテ消滅セシナルヲ以テ再ヒ提

出スルヲ得サル可ク然ハ則之ヲ廢棄ニ附ス可キヤ否ノ調査ヲ用フルヲ要セス故ニ若シ實ニ廢棄ヲ欲セントナラハ即チ第三讀會ヲ待テ其意見ヲ提出ス可キノミ此事ヤ日後ノ規例ニモ關係スルヲ以テ議長ノ明斷ヲ與ヘンコトヲ望ム

○議長 三十番ノ論辨ハ其理ニ當レリ二十七番ノ廢棄ト云ヒシハ恐クハ失言ナラン故ニ本席モ取決ノ時ニ至ラハ之ヲ發議者ニ質サント欲スルナリ

○三十七番 津田眞道 本案ヲ廢棄セントスル動議ヲ本會ニ採用セスト云フハ議場ヲ整頓スル議長ノ權内ニ存ス可キモ全部付託調査委員ヲ置キテ十分ニ調査セシムルハ當然ノ處置ト信スルヲ以テ之ヲ賛成ス敢テ望ム二十七番ノ廢棄ト云ヘルハ失言ト看テ其建議ノ議場ニ



行ハレンコトヲ

○二十七番 渡邊

前ニ本官ノ廢棄ト述シハ偶マ言ハ此ニ馳セタル者ニテ實ニ失言タルヲ知ル全部付託調査委員ハ全部付託修正委員ト異ニシテ音ニ修正ノミニ限ラス他ノ點ニ向テモ十分ニ意見ヲ提出スルコトヲ得ル者ト信ス即チ前會ニモ陳述セシ如ク裁判所ノ組織ヲ改良スルトキハ隨テ費用ヲモ省約スルコトヲ得ヘシ又印紙金額ニ關シテモ試ミニ一例ヲ舉レハ金七十圓ノ貸借訴訟ヲ構起センニ初審ヨリ控訴上告ヲ經レハ代言人ノ費用ヲ併セテ殆ント五十五圓七十五錢ヲ支辨セサル可ラス此ノ如キハ豈之ヲ過多ニ失スト謂ハサルヲ得ンヤ是レ本官ノ全部付託調査委員ヲ置キテ審カニ調査セシメンコトヲ欲スル理由ノ其一ナリ

○十五番

黒田  
清綱

廢案說ヲ本會ニ提出ス可ラサルハ實ニ然リ故ニ本官ハ更ニ本案廢棄ノ權理ヲモ併セテ其委員ニ付託センコトヲ望ム

○八番

井田  
讓

今ヤ本官ハ甚タ疑惑ヲ生スル有リ抑モ二十七番ノ建議ノ因由セル所ハ番外一番ノ昨日ノ説明ニ因テ本案ノ理由ヲ異ニスルカ爲メナラン番外一番モ前日ノ説明ハ齟齬ヲ致セリ今日ノ説明ハ本案ノ真正ノ理由ナリト云ヘル以上ハ改テ廢棄ナリ修正ナリ之カ調査委員ヲ設ケテ本案ヲ付託スルハ當然ノ事ト信ス更ニ之ヲ約言スレハ前委員ハ前説明ト共ニ消滅シ而シテ後委員ハ後説明ト共ニ成立ス可キ者トス

○議長 讀會規則ノ附則第二條ニ據リ建議ノ決ヲ取ント欲ス二十七番ノ廢棄ト云ヘル一言ニ關シテ一場ノ紛議ヲ起セシモ其誤言タル

コトノ已ニ判明セル以上ハ八番ノ疑議モ無用ナリト認ム

○四番本田親雄

本官モ全部付託調査委員ト云フ以上ハ廢棄ナリ修正ナ

リ其意見ヲ報告スルハ規則ノ許ス所ナレトモ若シ之カ權力ヲ制限

シテ廢棄スルヲ得ス專ラ修正ヲ加ヘヨト云フハ規則ニ悖戻ス故ニ

二十七番ノ建議ハ本會ニ於テハ決シテ成立ス可ラサル者ト確信ス

○議長 二十七番ノ全部付託再調査委員ヲ設ケントスル建議ハ讀會

規則ノ附則第二條ニ照シ其可否ヲ議場ニ問ハン之ニ同意スル者ハ

起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ建議ニ決ス而シテ其委員ハ前委員ヲ以テ之

ニ充テ復タ改選セサル可シ蓋シ是レ議場ノ人望ノ歸スル所ノ者ト

認ムレハナリ因テ委員各位ニ告ク本案ハ急施ヲ要スルコトヲ内閣  
ヨリ通牒セルヲ以テカメテ速ニ之カ調査ヲ了センコトヲ望ム其報  
告ヲ待テ更ニ開會セン本日ハ退散セヨ

正午閉場

元老院會議筆記 明治十七年一月三十一日

禁傍聽

○第四百二十四號議案 民事訴訟用印紙規則制定ノ儀 第二讀會 一月二十四日 及第

三讀會

議長 東久世 通禧

出席議員

二番	渡邊 洪基
六番	渡邊 驥
七番	官本 小一
八番	井田 讓
十一番	楠本 正隆
十二番	榎村 正直

十三番	大久保一翁
十四番	田邊 太一
十七番	福原 實
十九番	河田 景與
二十番	林 友幸
二十一番	伊丹 重賢
二十四番	大鳥 圭介
二十六番	野村 素介
二十七番	渡邊 清
二十八番	箕作 麟祥
三十番	柴原 和

午前第十時十五分開場

三十一番	上杉 茂憲
三十五番	鍋島 直彬
三十七番	津田 眞道
四十番	三浦 安
四十一番	西 周
四十二番	長岡 護美
四十五番	神山 郡廉
內閣委員	水本 成美
一 番外參事院議官	
同	公平
二 番外參事院議官補	周布
同	
三 番外參事院員外議官補	南部 甕男

○議長 本日ハ第四百二十四號議案ノ第二讀會ヲ開ク例ニ仍リ原案ト修正報告案ト孰レヲ議題ト爲ス可キヤノ決ヲ取ン

○二番渡邊 洪基 取決ニ先チ聊カ修正ノ理由ヲ陳ン本案ハ關係甚々重要ニシテ實ニ一大變革ヲ施ス所ノ者ナレトモ内閣委員ノ其萬モ已ムヲ得サル事實ヲ説明セルヲ以テ本官等反覆審按シ乃チ報告案ノ如ク修正セシナリ請フ各位ノ熟閱シテ以テ之ヲ賛成センコトヲ原案ニ於テ控訴上告ノ預金ヲ廢シ二倍三倍ノ印紙金額ヲ課收スルハ其理由ヲ知ルニ苦ム故ニ布告文中ノ「及ヒ」以下ノ二十四字ヲ削除セリ抑モ此預金ハ濫訴健訟ノ弊害ヲ防ク爲メニ控訴上告ニ之ヲ借託セシムル者ニシテ佛蘭西國ニ於テモ亦此制ヲ設ケリ蓋シ裁判費用ハ課セサルモ此預金ハ必ス之ヲ廢ス可ラサレハナリ又第一條ノ「ニ

付」以下ノ十一字ヲ削除セルハ其冗贅ニ屬スルカ爲メニシテ既ニ「凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ」ト云ヘハ足レルヲ以テナリ又第二條ニ「其受附ノ時ニ於テ」ノ八字ヲ加ヘタルハ重大ノ修正ナリ本官等初メハ「其受理ノ時ニ於テ」ト修正セシモ是レ受理シテ審判ヲ下スコトト爲ルノ不可ナレハ普漏士國ノ制ニ倣ヒ原被對審ノ時ニ印紙ヲ貼用セシムル者ト爲シ以テ此ノ如ク修正セシナリ其但書ヲ削除セシハ之ヲ第二條ノ後ニ移シ新加ノ特條ト爲シタルニ由ル又第二條ノ印紙金額ノ比例ハ司法省ヨリ上申シ内閣ニ於テモ審議ヲ加ヘラレタル者ナレトモ其權衡上ニ二點ノ失アルヲ奈何セン即チ其一點ハ輕重相稱ハサルニ在リ原案ノ比例タル印稅常ニ少額ニ重クシテ多額ニ輕ク一萬圓以上ハ每一千圓ニ五圓ト爲ス如キ是ナリ西洋各

國ニ於テモ普漏士ヲ以テ裁判費用ノ最モ多額ナル者トス然ルモ尙  
 ホ本案ノ半額ニ居ルニ過キス我國今日ノ民力タル豈彼ノ普漏士ノ  
 例ニ倍スル裁判費用ヲ負擔スルニ耐ンヤ此ノ如キハ健訟濫訴ノ弊  
 害ヲ防制スルニ非スシテ却テ人民ヲシテ冤ヲ飲ミ屈ヲ含ミテ起訴  
 スルコトヲ得サラシムルノ結果ヲ見ントス故ニ其比例ヲ普漏士ニ  
 取り以テ一列ニ之ヲ輕減セリ此輕減額ニ據テ按算スレハ其收入ハ  
 猶ホ能ク明治十四年ノ訴訟件數ニ施行スルノ比例ニ當リ大約六十  
 四萬圓ヲ得ヘシ唯十六年ノ訴訟件數ニ施行スルノ比例ニ當ルヲ得  
 サルノミ又他ノ一點ハ控訴ニ二倍上告ニ三倍ノ印稅ヲ課スル是ナ  
 リ凡ソ控訴ト上告トヲ問ハヌ皆是レ人民ヲシテ其權理ヲ伸暢セシ  
 ムルノ施設ナルニ金額一百圓ノ訴訟ヲシテ初審ヨリ控訴上告ヲ經

セシムルニハ殆ント四十餘圓ノ裁判費用ヲ要セントス豈甚タ過重  
 ナラスヤ普漏士ノ比例ノ如キ十分ノ二半即チ四分ノ一ニ當レハ斟酌  
 商量シテ控訴ハ十分ノ二上告ハ十分ノ四ト爲シタリ此ノ如クセ  
 ハ預金ヲ借出セシメサルモ可ナリトス此他金額ヲ輕減セシハ皆是  
 レ我國今日ノ民力ヲ察シテ以テ然ク修正シタルナリ又新タニ第三  
 條ヲ加ヘタルハ普漏士ノ例制ニ據ルニ金額ニ見積ル可ラサル訴訟  
 事件ニハ我カ八十錢ニ當ル印紙ヲ貼用セシムルモ今之ヲ三圓ト修  
 正シ以テ聊カ原案ヨリ輕減セシメタリ且其但書ヲ加ヘタルハ我國  
 ノ現状ニ於テ赤貧者ノ爲メニ此便法ヲ設ケサル可ラサレハナリ唯  
 其一般ニ免除ヲ與ヘスシテ裁判官ノ操縦ニ委セシハ此裁判費用ハ  
 曲者ヨリ辨償ス可キ者ト定メタルニ由ル又第四條ノ答辨書以下ノ

各種ナル文書ヲ削除セシハ元來手數料タルノ意ニ外ナラサレトモ西洋各國ノ例ヲ觀ルニ決シテ此等ノ文書ニ印紙ヲ貼用セシムル無キヲ以テナリ但其證人云云以下ノ文書ハ本訴ニ係屬スル者ナレハ貳拾錢ノ印紙ヲ貼用セシムルモ當然ナルノミ又第六條ヲ削除セシハ凡ソ勸解ノ事タル訴訟ヲ起ス以前ニ必ス先ツ經由セシムル裁判上ノ法式ニ過キスシテ未タ其事件ノ曲直ヲ判斷セサル者ナレハ原被其孰レノ之ヲ負擔ス可キヤヲ指定スルニ由ナク且西洋各國ノ制ヲ觀ルモ和解調停ヲ本旨トシテ絶テ印紙ヲ貼用セシムル無シ故ニ全ク削除ニ付シタルナリ又第七條ノ「直」ヲ曲ニ「曲」ヲ直ニ倒換セシハ曲者ヨリ辨償スル者ト爲セハ語路順ナラス且其請求スル「ヲ得」ト云フ如キ緩漫ノ言辭ヲ用ウ可キニ非ス故ニ辨償ス可キモノトス

ト斷言シテ必ス其曲者ノ負擔ス可キコトヲ明示スルヲ要ス以上ノ各項ハ即チ本案ヲ修正セル理由ノ大畧ナリ猶ホ質問ヲ得ハ之ニ詳答スル有ル可シ

○四十番<sup>三浦安</sup>

全部付託修正委員ノ一人タルニ番議官既ニ詳カニ本

案修正ノ理由ヲ陳述シタレハ本官復タ喋辨セサル可シ蓋シ第一讀會ニ於ル内閣委員ノ理由ノ説明ハ第二讀會ニ至リ大ニ改良シタルヲ以テ隨テ本案モ其旨趣ニ據テ修正セサル可ラス是レ此修正ノ要領ナリ且夫レ裁判費用ノ事タル我邦從來彼ノ訴訟野紙ノ施說アルノミニシテ他ニ其成例ナシ故ニ主務省モ普漏士國ノ制ヲ引テ其稿本ヲ立草セシナレハ本官等モ亦同ク普漏士國ノ制ニ倣フテ修正ヲ加ヘタリ此ノ如キハ素ヨリ本官等ノ甘ンセサル所ナレトモ其事創

始ニ係リ且既ニ刑法治罪法等モ專ラ佛蘭西國ノ制ニ取準セルヲ以テ是亦已ムヲ得サルノミ内閣ヨリ下付セシ原案ハ費用ヲ課收スル一點ニ偏スルモ我邦今日ノ民力猶ホ貧薄ナルヲ以テ今姑ク普漏士國ノ比例ニ據シ之カ金額ヲ減殺セルノミ決シテ本官等ノ新意匠ヲ加ヘタルニ非ス各位請フ之ヲ領セヨ

○議長 原案ト修正案トノ決ヲ取ン

○八番 井田 只今全部付託修正委員ノ説明ヲ聽クニ專ラ普國ノ制ヲ根據ト爲シテ修正ヲ加ヘタリト云ヘリ本官敢テ好テ抗辨スルニ非サレトモ其説明ノ如クンハ本案ハ必ス廢棄セサル可ラサル一理由ヲ生出セル者トス前會ニ於テ内閣委員ハ此印紙規則ノ必要ナル理由ナリトシテ四點ヲ舉示シ以テ手数料ヲ徵收スト云ヘリ彼ノ證人

○鑑定人云云ノ印紙稅ハ實ニ手数料ト謂フ可キモ第二條ノ印紙稅ノ如キ其金額ノ過多ナル決シテ手数料ト謂フ可ラス然レハ則チ第一讀會以來各議官ノ憂慮セシ裁判稅タルノ看ヲ爲スハ到底免カル可ラサルニ非スヤ此ノ如キハ人民ニ惡感觸ヲ與フル淺少ニ非サレハ本官ハ報告案ノ整備セルニ拘ラス原案ヲ併セテ廢棄ニ付センコトヲ切望ス

○三十七番 津田 眞道 本官ハ初メ本案ニ對シテ廢棄說ヲ唱ヘタルモ第二讀會ニ至リ翻テ之ニ同意シ多少修正ヲ加ヘタル理由ハ二番ノ詳述セル者ノ如シ尙ホ聊カ補陳セン見今司法省ノ定額ニ不足ヲ告ケ數十萬圓ノ増加ヲ要スルモ國庫之ニ供給ス可キ餘裕ヲ存セス又爲メニ他ノ租稅ヲ增課ス可ラス故ニ其補足ノ方策ハ唯此印紙稅ノ一法



アルノミトハ内閣委員ノ説明セル所ニシテ本官モ其萬已ムヲ得サルヲ知り之ニ對シテ同意ヲ表シタルナリ但印紙金額頗ル多キカ爲メニ其幾分ヲ減殺セシニ因リ收入總計ハ大約原案豫算ノ半額ニ過キサラントス此收入ヲ以テシテハ司法省ノ要用ヲ充スニ足ルヤ否ヤヲ知ラサレトモ本案ノ藍本タル普國ノ法律ヨリモ過多ナル印紙金額ヲ徵取スルハ本邦今日ノ民力ニ適應セス二番モ辨セシ如ク普國ニ於テ徵取セサル者モ本邦ニ於テ之ヲ徵取スルハ即チ其收入ヲ移シテ司法省ノ要用ニ充テ以テ裁判事務ヲ改良整備セシムルニ在レハ敢テ望ム各官モ已ムヲ得サル事情ヲ洞觀シ報告案ニ同意ヲ表センコトヲ

○議長 再報告案ヲ以テ議題ト爲スニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 多數ナルニ因リ再報告案ヲ以テ議題トス

書記官 西山眞平 朗讀

布告案

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年 月 日ヨリ施行ス

ス

但明治八年<sup>十二月</sup>第百九拾六號布告訴訟用罫紙規則及ヒ明治十年

月<sup>二月</sup>第拾九號布告控訴上告手續第十六條ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 布告案本案ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルニ因リ本案ニ決ス

書記官 西山 眞平 朗讀

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ニ付差出ス訴狀及ヒ其他ノ書類ニハ此規則

ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ ルモノトス

○議長 第一條本案ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十二人

○議長 多數ナルニ因リ本案ニ決ス

書記官 西山 眞平 朗讀

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ

區別ニ隨ヒ印紙ヲ貼用ス可シ 其受附ノ時ニ於テ

但人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノハ四圓ノ印紙ヲ貼用  
ス可シ

○十四番 田邊 太一 朱書ヲ加ヘタル所以ハ二番ノ陳辨セル如ク甚タ必要

ナル修正ナレトモ其「受付」ノ二字ハウケツケト訓讀スレハ可ナレト

モ若シ音讀スレハウケワタシノ意義ヲ有スルナレハ願クハ之ヲ受

取ノ二字ニ換ン

○議長 十四番ノ動議ハ賛成者ヲ得ス消滅ス

○議長 第一條本文ニ對スル發議ナクンハ金額列記ノ項ニ移ル可シ

書記官 西山 眞平 朗讀

金額拾圓未滿

貳拾錢

同

三拾錢

同 拾圓以上貳拾圓未滿<sup>マテ</sup> 五<sup>六</sup>拾錢  
 同 參拾五圓<sup>マテ</sup> 壹圓  
 同 貳拾圓以上五拾圓未滿<sup>マテ</sup> 貳圓 五拾錢  
 同 五拾圓以上七拾五圓未滿<sup>マテ</sup> 四圓  
 同 七拾五圓以上百圓未滿<sup>マテ</sup> 三圓 六圓  
 同 百五拾圓<sup>マテ</sup> 四圓  
 同 百圓以上貳百五拾圓未滿<sup>マテ</sup> 五圓 八圓  
 同 參百五拾圓<sup>マテ</sup> 六圓  
 同 貳百五拾圓以上五百圓未滿<sup>マテ</sup> 七圓 拾圓  
 同 五百圓以上七百五拾圓未滿<sup>マテ</sup> 九圓 拾三圓  
 同 七百五拾圓以上千圓未滿<sup>マテ</sup> 拾圓 拾六圓

同 千五百圓<sup>マテ</sup> 拾五圓  
 同 千圓以上貳千五百圓未滿<sup>マテ</sup> 貳拾圓  
 同 貳千五百圓以上五千圓未滿<sup>マテ</sup> 貳拾五圓  
 同 五千圓以上七千五百圓未滿 三拾圓  
 同 七千五百圓以上壹萬圓未滿<sup>五千</sup> 五拾五圓  
 同 壹萬圓以上八千圓<sup>五分</sup> <sup>二</sup> <sup>マテ</sup> 每ニ五圓ヲ加フ  
 控訴ニ於テハ二倍ノ印紙ヲ貼用シ上告ニ於テハ三倍ノ印紙ヲ貼用<sup>十分ノ四</sup> <sup>受附ノ時ニ加</sup>  
 ス可シ

○三十番<sup>柴原和</sup> 瑣細ノ注意ニ過キサレトモ參百五拾圓<sup>マテ</sup>ト云へ  
 ル參ノ字ハ密畫体ヲ用ウルニ三拾錢「三圓」ノ三ノ字ハ共ニ疎畫体  
 ヲ用ヒタリ嘗テ金穀米錢ニ關係スル文書ニハ壹貳拾ノ密畫体ヲ用

ウ可シトノ告令アリ舊幕府ノ制モ亦然リ三ノ字モ描改ノ虞懼アレ  
ハ密畫体ヲ用ヒテ一様ニ歸セシメンコトヲ欲ス壹貳ノ字モ亦然リ

○二番渡邊 洪基 本官ハ抗辨スルニ非サレトモ「三拾錢」ノ如キハ疎畫体  
ニテ可ナリトスルナリ

○十四番田邊 太一 本官モ文字ヲ指摘スルニ似タレトモ原案ノ如ク幾圓  
以上ト云ヒ以テ「マテ」ノ「二」字ヲ削除センコトヲ欲ス

○議長 十四番ノ修正ハ賛成者ヲ得ス消滅ス本案ノ如ク可決シ次ニ  
移ル各位ニ告ク三ノ字ハ疎畫体壹貳ノ字ハ密畫体ヲ以テ上奏セン

書記官西山 眞平 朗讀

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ參圓ノ印紙ヲ貼用  
スヘシ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戸長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁  
判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコトアルヘシ

○外二番周布 公平 朱書第三條ハ原案第二條ノ但書ヲ此ニ移セルナラン  
然ルニ其「モノ」ト云ヘルハ明瞭ヲ欠ケリ原案ノ如ク第二條ノ但書

ナレハ本條ノ事物ヲ承ルカ故ニ「モノ」ト云フモ指ス所ハ明瞭ナレ  
トモ分離シテ以テ特條ト爲ストキハ代名詞タル者ノ字ヲ下スモ其

指ス所ヲ知ル可ラス又其原案ノ四圓ヲ參圓ト爲セシハ過多ナリト  
シテ減殺セルナラン然ルニ朱書ノ但書ヲ以テ寬假スル所アレハ四

圓ト爲スモ過多ナリトセス願クハ原案ノ四圓ニ復センコトヲ  
○三十番柴原 和 番外二番ノ陳辨スル所ハ至當ナリトス原案第二條ノ

如ク本文ノ訴狀ヲ承ルナレハ但書ニ「モノ」ト云フモ得テ解ス可シ

此處ニ「モノ」ト掲ルハ突接タルヲ免レス然リト雖モ此第三條ニ訴  
狀ト掲ルモ穩當ナラサレハ本案ノ如ク「モノ」ト云ヒ而シテ「スヘシ」  
ヲ前條ニ準ス可シト爲シテ以テ之ヲ救ハン

○二十八番 麟祥 三十番モ云フ如ク金額ニ見積ル可ラサル訴狀トハ  
謂フヲ得ス故ニ姑ラク「者」ノ代名詞ヲ填用シタルモ若シ他ニ好文  
字アラハ喜テ之ニ從ハントス唯其「ヘシ」ヲ可シトスル三十番ノ説  
ハ至當ナレハ之ニ從フヲ要ス

○二番 渡邊 洪基 實ニ本文ノ「ヘシ」ハ「可シ」ト改ムルヲ是トスレトモ但書  
ノ「ヘシ」ハ所謂捨假名ナル者ナレハ本案ニ仍ラント欲スルナリ

○議長 二番ノ言ハ混淆セルニ似タリ本席ハ總テ可シト爲シテ上奏  
スルノ意ナレトモ二番若シ但書ハ「ヘシ」ト爲サントナラハ發議ト

認メテ之カ決ヲ取シ

○二番 渡邊 洪基 二十八番ノ意モ本官ノ云フ所ト同シト信セシニ因リ前  
言ヲ出セシナリ強テ發議ト爲スヲ要セサレトモ唯其捨假名ナレハ  
「ヘシ」ニテ可ナリト思惟スルヲ以テ試ニ發議ト爲シテ提出ス

○三十番 柴原 和 發議トシテ取決スルハ議事ノ經過ヲ遲滯セシメント  
ス前後一樣ナレハ可ナラン

○議長 二番ノ「ヘシ」トスル動議ハ賛成者ヲ得ス消滅ス本案ニ同意  
スル者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 多數ナルニ因リ本案ニ決シ且可シト爲シテ上奏セン

書記官 西山 眞平 朗讀

第三條<sup>四</sup> 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

答辯書證據物寫辯駁書辯論書上申書陳述書等

○<sup>外</sup>番三番<sup>南都</sup> 本條第二項ハ内閣委員タル本官等ノ説明周到セサル

ヨリシテ全ク削除ニ付セラレタルモ此等ノ書類ハ其供呈以後ニ解  
訟スルコト往往之レアリ故ニ原案ノ如ク印紙ヲ貼用ス可キ者ト爲  
セハ之ヲ供出セスシテ解訟スル者必ス多キナリ又凡ソ證據書類モ  
原被對審ノ時ニ至テ之ヲ供呈シ以テ印紙ヲ貼用スルハ普國ノ慣例  
ニ於テモ亦然リ況ヤ我カ民智ノ程度未タ進マス論辨書辯駁書等常  
ニ多クハ無用ニ渉ルヲヤ故ヲ以テ印紙ヲ貼用スル者ト爲セハ彼レ  
皆之ヲ避ケ以テ專ラ口陳ヲ主トスルニ至ラン是レ裁判上ニ於テ無  
用ノ煩勞ヲ省ク者ニシテ其之ヲ存置スルモ決シテ訴訟者ニ多費ヲ

要セシムルコト無キナリ

○二十一<sup>伊丹</sup>番<sup>重賢</sup> 本官ノ意見ハ番外三番ト反對シ此項ヲ存置スレハ

却テ裁判ノ順叙ヲ遲滯セシムルヲ信ス凡ソ答辯書證據書類ハ多ク

ハ裁判官ノ其供呈ヲ命スル者ニシテ原被告人ニ在テハ緊要ト認メ

○<sup>ス</sup>シテ供呈スルモ裁判官ニ在テハ有効有力ノ證據ト認メテ忽チ其  
裁判ヲ下スコト有ル可シ況ヤ是等ノ書類ニ課税スルハ普國ニ於テ  
モ其例ナシト聞ク故ニ之ヲ削除ニ付シ以テ原被告人ヲシテ十分ニ  
供呈スルコトヲ得セシムルヲ要ス

○二十八<sup>笑作</sup>番<sup>麟祥</sup> 此項ヲ削除セシ理由ハ過刻ニ番ノ陳述セル者ノ如

シ又前會ニ於テ番外一番モ此印紙税ヲ課スルハ手數料ヲ徵收スル  
ノ精神ナリト云ヘリ然ラハ則チ削除セサル可ラサルノミ夫レ裁判

官ハ單ニ訴狀ノミヲ一覽シテ直ニ裁判ヲ下ス者ナランヤ答辨書證據書類等必ス訴狀ニ關シテ供呈セシムル者トス即チ前條三圓ノ印紙ハ審ニ裁判官ノ手数料ニ充ルノミナラス併セテ訴狀ニ連屬スル文書ノ手数料ニ充ルナレハ決シテ別ニ印紙ヲ貼用セシム可キニ非ス但其證人鑒定人云云ノ如キハ所謂附帶訴訟ニ係リ原被告人ノ自ラ要求スル者ナレハ印紙稅ヲ徵收シテ可ナルノミ

○議長 第四條第一項ハ可決ト認メ次項ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

證人鑒定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

○審判ノ延期ヲ請求スル願書

○議長 發議ナクハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第五條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

○官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財產差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

第六條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ節貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第七條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ直者ヨリ曲者ニ對

シ其辨償ヲ請求スルコトヲ得 可キモノトス

○議長 第七條本案ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルニ因リ本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第八條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第九條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其

他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 西山 眞平 朗讀

第十條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二

百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ

買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙



ヲ沒收スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ課スルモノトシテ其刑ヲ減輕再

○議長 可決ト認メ次條ニ移ルル事トシテ其刑ヲ減輕再

第十書記官 西山眞平 朗讀

第十一條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再

犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○議長 第十一條本案ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルニ因リ本案ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢ル

○番一 水本成美 本案ハ最モ急施ヲ要シ而シテ其第二讀會ニ於ル議場

ノ景況ヲ觀ルニ甚シキ動議ノ出ル無ル可ク且時晷尙ホ午前ニ在レ

ハ敢テ本日ヲ以テ第三讀會ヲ開ンコトヲ請求ス

○二十一 伊丹重賢 本案ノ爲メニハ本院開院式ヲモ例期ニ先チ舉行セ

ラレタルナレハ番外一番ノ請求ヲ容レ本日ヲ以テ第三讀會ヲ開ク

コトヲ望ム

○議長 内閣委員ノ請求ニ應シ本日第三讀會ヲ開クニ同意スル者ハ

起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第三讀會ヲ開ク

○三十書記官 西山眞平 朗讀

民事訴訟用印紙規則別紙

通制定シ明治十七年十月一日ヨリ施行

ス

但明治八年<sup>十二</sup>月 第百九拾六號布告訴訟用罫紙規則及ヒ明治十年

月<sup>工</sup>第拾九號布告控訴上告手續第十六條ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○三十番<sup>柴原和</sup> 唯今布告案ノミヲ朗讀セシメラレタリ然ルニ過刻以

來內閣委員モ本案ノ修正ニ對シテ甚タ抗辨スル無シ蓋シ之ヲ是認

セル者ノ如シ且第二讀會ニ於テハ通篇復タ一字タモ修正ヲ加フル

アラス故ニ布告案ヲ併セテ通篇ヲ議題ニ付センコトヲ建議ス

○議長 三十番ノ建議ノ可否ヲ議場ノ衆議ニ問シ其建議ニ同意スル

者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルニ因リ通篇ヲ朗讀セル者ト看做シテ之ヲ議題ニ付

ス

○議長 本案ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十九人

○議長 多數ナルニ因リ本案ニ決シ例ニ仍リ上奏セン本日ハ散會セ

ヨ

○朗讀ハ布告案ノミナルモ參照ノ爲メニ此ニ具載ス

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ニ付差出ス訴狀及ヒ其他ノ書類ニハ此規則

ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ<sup>ルモノトス</sup>

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ

區別ニ隨ヒ印紙ヲ貼用ス可シ<sup>其受附ノ時ニ於テ</sup>

但人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノハ四圓ノ印紙ヲ貼用

ス可シ

金額 五圓マテ  
拾圓未滿

貳拾錢

同 同マテ

三拾錢

同 拾圓以上貳拾圓未滿マテ

六拾錢

同 三拾五圓マテ

壹圓

同 貳拾圓以上五拾圓未滿マテ

壹圓 五拾錢

同 五拾圓以上七拾五圓未滿マテ

貳圓

同 七拾五圓以上百圓未滿マテ

三圓

同 百五拾圓マテ

四圓

同 百圓以上貳百五拾圓未滿マテ

五圓

同 三百五拾圓マテ

六圓

同 貳百五拾圓以上五百圓未滿マテ

七圓

同 五百圓以上七百五拾圓未滿マテ

九圓

同 七百五拾圓以上千圓未滿マテ

拾壹圓

同 千五百圓マテ

拾五圓

同 千圓以上貳千五百圓未滿マテ

貳拾圓

同 貳千五百圓以上五千圓未滿マテ

貳拾五圓

同 五千圓以上七千五百圓未滿

三拾圓

同 七千五百圓以上壹萬圓未滿

三拾五圓

同 壹萬圓以上八千圓マテ每ニ五圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ二倍ノ印紙ヲ貼用シ上告ニ於テハ三倍ノ印紙ヲ貼

用ス可シ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戸長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコアル可シ

第三條<sup>四</sup> 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ  
答辯書證據物寫辯駁書辯論書上申書陳述書等

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書  
審判ノ延期ヲ請求スル願書

第四條<sup>五</sup> 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ  
官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書  
身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第五條<sup>六</sup> 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚

三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ  
但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

第六條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ節貳拾錢ノ印紙ヲ

貼用ス可シ

第七條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ直者<sup>曲</sup>ヨリ<sup>直</sup>曲者ニ對

シ其辨價ヲ請求スルコトヲ得 可キモノトス

第八條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其  
他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第十條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二  
百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ  
買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙  
ヲ沒收ス

第十一條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再  
犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス  
午前第十一時五十分閉場

元老院會議筆記 明治十七年二月四日

禁傍聽

○第四百二十五號議案 地租法制 第一讀會

議長 佐野常民

出席議員

- |     |       |
|-----|-------|
| 一番  | 鍋島 幹  |
| 二番  | 渡邊 洪基 |
| 三番  | 東久世通禧 |
| 七番  | 宮本 小一 |
| 八番  | 井田 讓  |
| 九番  | 神田 孝平 |
| 十二番 | 榎村 正直 |

- 十三番 大久保一翁
- 十四番 田邊 太一
- 十五番 黒田 清綱
- 十七番 福原 實
- 十九番 河田 景與
- 二十番 林 友幸
- 二十一番 伊丹 重賢
- 二十三番 橋口 兼三
- 二十四番 大鳥 圭介
- 二十六番 野村 素介
- 二十七番 渡邊 清

- 二十八番 箕作 麟祥
- 三十番 柴原 和
- 三十一番 上杉 茂憲
- 三十二番 鷺尾 隆聚
- 三十六番 細川潤次郎
- 三十七番 津田 眞道
- 三十八番 海江田信義
- 四十番 三浦 安
- 四十一番 西 周
- 四十二番 長岡 護美
- 四十五番 神山 郡廉

內閣委員 番外一番 參事院議官 山尾 庸三

同 番外二番 參事院議官補 岩崎小二郎

同 番外三番 參事院員外議官補 神鞭 知常

午前第十時十分開會

○議長 第四百二十五號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀セハ例ニ遵ヒ發議セヨ

書記官 西山 眞平 朗讀

布告案

地租法別冊ノ通制定シ明治六年<sup>七</sup>月<sup>七</sup>第貳百七拾貳號布告地租改正條  
例明治十年<sup>十一</sup>月<sup>十一</sup>第八拾號布告並地租改正ニ關スル條規其他本法ニ  
抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當  
分從前ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

地租法

第一條 ハ地租ハ地券面ノ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス  
第二條 地租ハ八年ノ豐凶ニ由リテ増減セス  
第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地、

第二類 池沼、山林、原野、雜種地、

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ



第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成、等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三十步ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勻ト爲ス

第五條 開墾歟下年期明荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ルトキ又ハ地目變換スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第六條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非サレハ修正セス

第七條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘ

シ

第八條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第九條 地目ヲ變換スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス

第十條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十一條 地租ハ地券記名者ヨリ徵收ス但質入ノ土地ハ其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十二條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄

塘、井溝、公衆ノ用ニ供スル道路、ト爲ストキ其地租ハ其地工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徴收ス

第十三條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十四條 開墾地ハ歛下年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十五條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ開墾地ハ十五年以内ノ歛下年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十六條 歛下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ歛下年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 歛下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサル者ハ更ニ十五年以内歛下繼年期ヲ許可ス

第十八條 歛下年期明ノトキハ其他價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ達セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正ス

第十九條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十條 免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ

十年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス  
第二十一條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ免  
租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ  
現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十二條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更  
ニ十年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キ  
モノハ第二十條第二十一條ニ依テ處分ス

第二十三條 川成、海成、湖水成、ニシテ免租年期明ニ至リ容易ニ原  
形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期  
明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、  
湖、ニ歸スルモノトシ其地券ヲ還納セシム

第二十四條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脱スル者ハ四圓以上四十圓以  
下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴  
ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十五條 第十條第十五條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下  
ノ罰金ニ處ス其免租地ヲ有租地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許  
可スヘキモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但  
地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第九條第十六條ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五  
錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 第二十四條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所  
有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人、ヲ罰シ地租ハ所有主

ヨリ追徴ス

○番二番岩崎小  
外二番二郎

本案ノ發布ヲ要スル理由ヲ略陳セシ明治六年第貳百七拾貳號布告地租改正條例ハ特ニ地租ヲ改正スル爲メニ制定セシ者ニシテ其本色ヲ以テ之ヲ言ヘハ專ラ改正ニ係ル順序ヲ提出セハ足ル可キニ稍ヤ其範圍ヲ超エ事實ノ名義ニ適セサル甚タ多シ況ンヤ之ヲ地租改正條例ト謂ヘハ改正事業ノ整頓セシ以上ハ此條例ノ功用モ已ニ盡セルニ於テヲヤ然ルヲ依然今日ニ存セシムルハ名實俱ニ其宜キヲ失フ故ニ本法ヲ制定シテ以テ名實ヲ正シ併セテ地租ニ關スル布告布達ノ散見シテ討索ニ便ナラサル者ヲ集訂シ以テ一部ノ法典ヲ成セシナリ因テ名ケテ地租法ト曰フ蓋シ是レ從前ノ法規ヲ採取セル素ヨリ多キニ居ルト雖モ此際更革ヲ加ヘタル者モ

亦少ナシトセス其差ヤ重要ナル件項ヲ舉ンニ第一ハ地租改正條例第六章ニ係ル是レ地價百分ノ三ヲ以テ租額ト定ムト雖モ爾後茶烟草材木其他ノ物品稅漸次ニ發行シ其收入額二百萬圓以上ニ至レハ同額ノ地租ヲ減シ遂ニ百分ノ一ニモ及ホスコトヲ言ヘル者ナリ然ルニ此事ヤ當時改正ヲ施ス際ニ在テハ肝要タル可キモ今日ニ追テハ實ニ謂レ無キノ事ニ屬シ啻ニ稅法ノ主義ニ反スルノミナラス又普通ノ道理ニ乖ケリ是ヲ以テ人民タル者モ敢テ此一事ニ對シテ是非スル無シ蓋シ物品稅ヲ課收シ以テ國家ノ經濟ヲ維持スルニ足ル可キ場合ニ至レハ素ヨリ地租ヲ減スルハ當然ナルモ豫メ之カ約ヲ立テ貳百萬圓ノ課額ニ上ラハ同額ノ地租ヲ減シ終ニハ百分ノ一ニ至ラシム可シト云フハ後圖ニ妨ケ無キ能ハス爲メニ大ニ經濟上ニ

關係ヲ致サントス第二八七年第五十三號布告地租改正條例追加第八章ニ係ル是レ地租改正以後賣買地價ニ増減ヲ生スルモ改正ノ初年ヨリ五年間ハ既定ノ地價ニ據テ收租ス可キヲ言ヘル者ナリ又十三年第二十五號布告ヲ以テ地租改正以後五年間ハ既定ノ地價ニ據テ收租ス可キモ仍ホ明治十八年マテ舊ニ依リ收租ス可キト言ヘル有リ此兩布告ノ定ムル所ヲ以テスレハ必ス每五年ニ改正ヲ爲ササルヲ得スシテ十三年第二十五號布告ハ纔ニ其第二期ノ改正ヲ延ヘタルノミ然リ而シテ其每五年ニ改正スルハ理論上ニ於テハ公平ナルカ如キモ其實ハ大ニ然ラス試ミニ其一例ヲ言ヘハ地價ノ品評ノ甲縣ニ重クシテ乙縣ニ輕ク或ハ同一管轄内ニシテ輕重ノ差異ヲ見ルヨリ既ニ其改正ヲ請願セル者アリ然ルニ之ヲ改正セントセハ其

一區部ニ止ラス勢ヒ一般ニ及ハントシ其費用實ニ巨大ニシテ地主ノ困難ハ言フ可ラス是レ前年ノ改正ニ於テ實驗シタル所ナリ豈今日再ヒ其慘狀ヲ致サシメテ可ナランヤ又每五年ニ改正ヲ施セハ時地價ニ變更ヲ來シ地主佃作人共ニ勞役ノ功ヲ失シ其所得ニ定度ナク歲月ノ久キヲ經ルモ更ニ安息ノ日ヲ見サラントス是ノ如キハ業ヲ勵ミテ土地ヲ肥セル農民ニ益セス反テ業ニ懈リテ土地ヲ蕪セル農民ニ便スルノ現象ヲ露サンノミ且夫レ頻年改正ニ改正ヲ加フルモ遂ニ一般人民ヲシテ満足セシムル能ハス徒ラニ外面ノ善美ヲ慕ヒ爲メニ内情ノ困難ヲ重子其極人民互ニ紛爭シ官民相ヒ軋轢スルニ至テ已マンノミ加之一般人民ハ憂慮シテ謂ハントス十八年ハ改正期限ナルモ政府今日未タニ令達スル所アラス果シテ豫定ノ如

クナル可キカ將タ更ニ延期ニ付ス可キカト故ニ一日タモ早ク本案ヲ發布シ以テ其疑念ヲ斷セサル可ラス今ヤ地租改正條例第八章并ニ之ニ抵觸スル各制規ヲ廢セハ復タ毎五年ニ改正セサルコトヲ知リ大ニ民心ヲ安着セシムルノミナラス土地ノ改良モ亦大ニ進歩スルヲ見ン第三八十年第八十號布告ニ係ル是レ地租金ノ額内其田方ニ限り當分人民ノ情願ニ任セ半額ニ至ルマテハ地租改正ニ用ヒタル相場ヲ以テ代米納ヲ許セル者ナリ夫レ我國ノ財政タル地租ヲ以テ根本ト爲シ其地租ハ金納セシムルヲ定則ト爲ス然レハ則チ此代米納ノ一事ハ大ニ地租改正ノ主旨ニ悖ルヲ以テ早晚必ス廢止セサル可ラス然リト雖モ今日米價低落セル時ニ於テ廢止スルハ世人ノ注目スル所ト爲ルヲ免レサルモ反覆思惟スレハ是レ徒タ皮相ノ見

ノミ却テ眞理ニ違ヘリ若シ今日米價低落セル時ニ於テ廢止スルヲ不可ナリトセハ試ミニ政府ノ曾テ今日ト反對セル地ニ立タル時ヲ思ヘ回顧スルニ三四年前米價騰昂セシ時ニ於ルモ仍ホ米價低落セシ時ノ相場ヲ以テ定メタル地租金ヲ以テ國用ヲ辨給セリ當時ノ政府ニ於ルト今日ノ人民ニ於ルト彼此其困難ヲ比セハ啻ニ過不及ナキノミナラス未タ以テ政府ノ困難ノ極點ニ達セシ時ノ比ニ至ラス既ニ代米納ノ非舉ナルヲ知ラハ今日ハ此姑息法ヲ廢止スル時機ナルヲ知ラン以上ニ述ル所ノ三要點ハ本法ヲ制定スル主眼ト爲ス大體ノ主義此ノ如シ願クハ其旨趣ノ滿場ニ貫徹シ以テ速カニ本案ニ可定センコトヲ

○二番 渡邊 洪基

本案制定ノ要領ハ略ホ内閣委員ノ辨明スル如クナル可

シ本官ハ視テ良案ト做ササルモ已ニ此慣例ヲ爲シタル以上ハ其已ムヲ得サルヲ知ル蓋シ全体ニ就テ論スルトキハ當時地租ヲ改正スル其方法ノ宜キヲ得サル者實ニ多シ寧ロ舊幕府封建時代ノ制度ノ如ク收穫ニ據テ貢納セシムルヲ優レリトス今其改正法ノ宜キヲ得サル理由ノ一二ヲ舉シニ政府ハ此改正ノ爲メニ歲入ヲ減シ而シテ農民ハ大ニ其業ノ改良ヲ妨ケラレタリ蓋シ其租額ヲ定ムルヤ單ニ米麥桑茶ノ如キ小部ノ收穫ヲ目的ト爲シテ算定セシ地價ナルヲ以テ自然ニ遠大ノ事業ヲ作興スル便宜ヲ失セルナリ加之我國ハ往古ヨリ農業ヲ以テ基本ト爲セシニ地租改正以來全國ノ耕地ヲ他ノ地種ニ比較スルニ其面積ノ少ナキ實ニ驚クニ堪タリ是レ改正法ノ宜キヲ得サルニ職由ス且此改正ノ爲メニ新ニ土地ニ所有主ヲ生シ所

謂普天之下莫非王土ト言ヘル古格言ノ主義ニ反シ隨テ一國ノ經濟ニ不利ヲ加フ此ノ如キ失宜ノ改正ハ各外國共ニ其例ヲ見サルナリ故ニ本官ハ謂ラク早晚必ス地租法ニ大改正ヲ行ヒ以テ此巨害ヲ濟ハサル可ラス而シテ其改正方法ハ地租ヲ所得稅ニ取ルニ在リ是レ特ニ租稅賦課ノ眞理ニ適合シ隨テ政府ノ歲入モ亦大ニ増加セントス然レトモ此事ハ自ラ他日ノ論題ニ屬シ今日依然現行法ヲ施ス限リハ內閣委員ノ陳述セル如ク地租改正條例第六章第八章及ヒ十三年第二十五號布告十年第八十號等ヲ改更セントスルハ已ムヲ得サルノミ然リト雖モ本案ヲ名ケテ地租法ト爲シ永遠ニ施行スル法典ノ如キ看ヲ有セシムルハ甚タ不可ナリ前キニ內閣委員ハ每五年ニ改正スル明文ヲ存スルトキハ人民ノ其心ヲ安スル期ナシト云フモ

本官ハ然リトセス假令本案ヲ發表スルモ仍ホ第七條ニ於テ「一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨布告スヘシ」ト言ヘル有レハ未ダ以テ其心ヲ安スルヲ得ス又内閣委員ハ地租改正條例ハ改正ノ順序ヲ示セル者ナレハ必ス地租法ニ改メサルヲ得スト云フモ既ニ久シク實地ニ施行シ何等ノ障礙モ無キヲ知ラハ故サラニ好ミテ新創ノ看ヲ觀スヲ須ヒサル可シ要スルニ本官ハ前三件ヲ改更スルハ已ムヲ得サレトモ其他ハ總テ舊慣ニ仍ルヲ可トスルナリ

○三十番柴原和

本官ハ内閣委員ノ説明セル理由ヲ聞クモ之カ可否ヲ決スルニ困シム現行法ヲ存センカ内閣委員ノ陳述セル障礙ヲ致スヲ奈何セン然ラハ則チ之ヲ廢センカ爲メニ別ニ障礙ヲ生スルヲ奈何セン因テ本官ハ内閣委員ノ説明セル三件ニ對シテ思想ヲ吐露セ

ントス内閣委員ハ六年第貳百七拾貳號布告地租改正條例ノ必ス廢ス可キヲ説ケトモ本官ノ見ル所ヲ以テスレハ未タ其必ス廢ス可キノ理由ヲ見サルナリ抑モ六年第貳百七拾貳號布告ハ其端首ニ詔諭ヲ載セ實ニ永遠無朽ニ遵行ス可キ者ナルニ本案ニ據ルトキハ併セテ之ヲ廢滅ニ付スルノ恐レ有リ且ヤ其第六章ノ如キ之ヲ存スルモ毫モ障礙ヲ致スコト無シ或者ノ言ヲ聞クニ此第六章ノ存スルヨリシテ往往各地方ヨリ政府ニ建議シ以テ其履行ヲ請求スル有リト然ルニ是レ建議者ノ誤解ニ由ルノミ政府決シテ意ニ介スルニ足ラス夫レ各種ノ稅額ハ漸次ニ加ハラサルニ非サレトモ物品稅ノ如キ貳百萬圓ノ巨額ハ姑ク措キ未タ壹圓ノ小額タモ賦課セル無シ然レトモ第六章ノ原意ヲ推セハ本ト權宜ノ措置ニ出タル者ナレハ之ヲ廢



スルハ強テ抗辨ヲ要セストスルモ地租改正條例ノ全部ヲ舉テ之ヲ廢シ併セテ詔諭ニ及ホサントスルハ默視ス可ラス蓋シ六年ニ地租改正條例ヲ發表セルヤ本官時ニ職ヲ地方ニ奉シ稍ヤ其事ヲ與リ知ル當時陸奥宗光租稅頭タリ現大藏卿タル松方氏租稅權頭タリ以テ專ラ改正事務ヲ擔當シ其他松田道之市川正寧等六七名之カ委員ト爲リテ本官等ト商量シ幾ント三四旬ノ日子ヲ費シ以テ條例ヲ起草シタリ故ニ其旨趣ノ存セル所ト其議論ノ歸セル所トハ歴歴トシテ今猶ホ之ヲ見ルカコトシ元來此改正事業タル當初ニ在テハ容易ニ行ハル可キニ非スト爲セリ故ニ其第一章ニモ「地租改正ノ儀ハ不易ノ事業ニ付實際ニ於テ反覆審案ノ上調査可致云云必シモ成功ノ速ナルヲ要セス云云」又其但書ニモ「一管内悉皆整理無之候共一郡

一區調査濟ノ部分ヨリ施行イタシ不苦」ト言ヘルヲ以テ之ヲ知ル可シ是ヲ以テ一方ニ物品稅ヲ設ケ以テ少シク民心ヲ慰安セントスル方略ヲ取タルモ實際ニ於テハ今日ニ至ルマテ一モ物品稅ヲ賦課セシコト無シ是レ本官ノ此第六章ヲ廢スル可否ヲ決スルニ困シム所以ナリ又其第八章ノ地租改正期限ヲ廢セントスルハ稍ヤ其理由ナキニ非スト雖モ之ヲ廢セハ實際ニ障礙ナキ能ハス何トナレハ其改正期限ヲ每五年ト定メタルハ全國地租ノ改正ハ固ヨリ重大ノ事業ニシテ永遠ヲ期トシテ修補ヲ加フルニ非スンハ成功ヲ奏スル能ハサレハナリ加之當時人民動モスレハ改正事業ニ不服ヲ唱フル有リシヲ以テ是レ胡ソ五年後ニ至リ更ニ改正ヲ得ヘケレハ姑ク忍フ可シト說諭スルノ機具タルニ非サルヲ知ンヤ又其地形ニ於ル難易一

ナラス三角ナル者有リ八角ナル者有リテ調査完全ヲ欠ク無キニ非サレトモ是亦十八年ノ再調査ヲ期セシナル可シ然ルニ當時米價ハ三圓ヨリ六圓ノ間ニ上下シタル比例ヲ以テ地價ヲ評定セシニ爾後彌昂騰シテ十圓餘ニ上リ人民ノ所得意外ニ多キヲ以テ再調査ヲ悅ハサル情況ナリシモ近來ニ至リ米價漸ク低下セシヲ以テ前キニ改正ノ當ヲ得サル者陸續嘆訴スルモ十八年ノ改正再調査ヲ待テヨト説諭セシ地方廳モ多カル可シ是其官吏ノ一時ノ口辨ニ出タルモ若シ之ヲ實踐セサレハ信ヲ人民ニ失セントス然ルニ本案ノ如クンハ全ク改正ノ企望ヲ斷ツヲ以テ或ハ言者ノ政府ヲ目シテ人民ヲ欺罔セリト爲スモ亦知ル可ラス若シ夫レ十八年ノ一期ヲ既定ニ照シ結了セハ爾後ハ幾年ヲ延ルモ可ナルノミ若シ今ニ於テ斷然ニ此期

限ヲ廢セハ地方官ハ何等ノ言カ能ク信ヲ人民ニ表ス可キヤ是レ此期限ヲ廢スルノ可否ヲ決スルニ困シム所以ナリ又十年第八十號布告ヲ以テ代米納ヲ聽許セシニ今之ヲ廢セハ人民ニ如何ナル感觸ヲ與フ可キヤヲ思慮セサル可ラス蓋シ十年ニ當テハ米價騰貴セシヲ以テ人民敢テ米納ヲ願ハサリシモ今日ニ及テハ大ニ然ラス畢竟此代米納法ヲ設ケタルハ一ニハ地租ヲ金納ニ定メ一ニハ地租ノ徵收ニ期限ヲ立タルヲ以テ其期限以前ニ米穀ヲ發賣シ以テ納金ニ充テサルヲ得ス奸商其機ニ乘シテ低價ニ買取セントスル弊害ヲ救フニ在ルナレハ殊ニ要用ノ法制ト爲ス然ルニ實際ニ於テハ製俵運搬等許多ノ煩勞アルヲ以テ人民多クハ之ヲ欲セサルモ已ムヲ得サル場合ニ於テハ勢ヒ此便法ニ依頼セサルヲ得ス是レ本官ノ此布告ヲ廢

スルノ可否ヲ決スルニ困シム所以ナリ其他本案ノ「地租法別冊」ノ通制定シ「ト言ヘルニ拘ラス」地租改正條例云云其他本法ニ抵觸スルモノハ廢止ス「ト併掲セシハ其何ノ故タルヲ知ラス既ニ地租法ト言ヘハ地租ニ關係スル者ハ悉ク之ヲ網羅ス可キニ仍ホ此ノ如クナルハ是亦本官ノ其可否ヲ決スルニ困シム所以ナリ要スルニ本案ハ人民ノ休戚ニ關スル甚々重大ナレハ願クハ本會ノ終リニ於テ全部付託調査委員ヲ設ケ以テ之ヲ廢ス可キカ將々之ヲ存ス可キカヲ審按シ其報告ニ據テ更ニ議ニ付センコトヲ望ム故ニ本官ハ機會ヲ俟チテ之ヲ建議セントス

○二十七番 渡邊 本案ハ必ス發表スルヲ要ス本官ハ其發表スル時機ノ少シク後レタルヲ惜ム決シテ早キヲ覺ヘサルナリ元來地租改正

條例ハ其改正ノ順序ヲ提示セシ者ニシテ既ニ已ニ成功ヲ告タル以上ハ改テ地租法ヲ頒布シ以テ全國人民ニ一定ノ法律ヲ遵奉セシム可キハ言ヲ待タス然ルニ地租改正條例第六章第八章及ヒ十年第八章十號布告ノ如キハ甚々將來ニ障礙ヲ爲ス者ナリ速ニ廢止セサル可ラス抑モ當時地租改正ニ着手スルヤ地租ハ五千萬圓ヲ收メ而シテ他ノ諸稅ニ於テ一千万圓ヲ收メ二者ヲ合セテ六千萬圓ノ總額ト爲ル此等ヲ經稅ト爲シテ國庫ニ收入シ其餘ノ雜種稅ハ緯稅ト爲シ各地方ニ留メテ地方事務ヲ經營スル費途ニ充テシメントス是レ其根軸タル目的ナリ故ニ物品稅二百萬圓以上ニ至ラハ其比例ヲ以テ地租ヲ減ス可キヲ揭示セシモ改正事業ノ成ルニ及ヒテ最初ニ豫算セル地租額ニ達スル能ハス然レトモ丈量ヲ精密ニセハ隱地ヲ發見シ

餘地ヲ檢出スル等ニ因テ略ホ其豫算額ニ達スル有ラントセシニ是亦畫餅ニ屬シ主務官モ幾ント其減少ニ喫驚セリ是ニ於テ豫定ノ目的ヲ變セサルヲ得ス加之第六章ハ實ニ道理ニ合セサル者トス何トナレハ租稅ハ國家ヲ經理スル財本ニシテ時勢ノ緩急ニ隨ヒ増減其宜キヲ制ス可キ者ナルニ初ヨリ範圍ヲ狹メ活路ヲ塞クハ決シテ得策ニ非サレハナリ是レ其宜ク廢スヘキ所以トス又第八章モ若シ必ス毎五年ニ改正スル者ト爲セハ官民ノ損害甚タ巨大ナリトス既ニ前年ノ改正ニ於ル其費用恰モ一歲ノ收入ニ匹敵セシニ非スヤ向來ハ稍ヤ之ヲ減スルモ諸雜費ヲ算セハ必ス一千萬圓内外ニ及ハン然ラハ則チ土地人民ヲ愛護スルノ本旨ニ反セン是レ其宜ク廢スヘキ所以トス又十年第八十號布告モ亦今日ノ時勢ニ於テ之ヲ廢スルハ

實ニ已ムヲ得サルナリ今ヤ國家ノ財政漸次ニ釐革シ大藏省ノ規矩モ日ヲ逐テ整理シ日本銀行ノ設立其日尙ホ淺キモ租稅金ノ管理ニ任スル等庶事悉ク其面目ヲ改メリ此時ニ當テヤ特ニ政府ノ歲出入ヲ精確ナラシムルコトヲ要ス彼ノ代米納ノ如キ敢テ政府ニ損害ヲ與フルニ非スト雖モ理財方法ヲ整肅ナラシムルニハ必ス金納ノ一途ニ歸セシメサル可カラス某議官ノ駁論ハ詔諭ニ負キ人民ヲ欺クト云ヘル如キ語氣ヲ帶ルモ本官ハ決シテ然リト爲サス本案ハ即チ勅旨ヲ奉シテ布告スル者ナレハ從前ノ法令ヲ廢スルニ於テ何カ有シ況ヤ今日實際ニ履行ス可ラサル者ヲ存セハ却テ人民ノ迷誤ヲ來ス可キヲヤ之ヲ廢スルハ當然ナリ奚ソ人民ヲ欺クトセンヤ夫レ已ニ刑法治罪法ノ如キ大典ヲ實行シ百事成文律ヲ以テ政ヲ施シ治ヲ